

3-2 自然的状況

3-2-1 大気質、騒音、振動、悪臭、気象その他の大気に係る環境の状況

1. 気象

対象事業実施区域に最も近い気象観測所は、熊谷地域気象観測所である。

熊谷地域気象観測所における過去 10 年間の気象の状況を表 3-2-1-1 に、令和 4 年の気象の状況を表 3-2-1-2 及び図 3-2-1-1～図 3-2-1-2 に示す。

平成 25 年～令和 4 年の平均気温は 15.9℃、最高気温は 38.8℃、最低気温は-5.1℃、平均風速は 2.5m/s、最多風向は西北西、平均降水量は 1,289.2 mm である。

また、令和 4 年の気象をみると、平均気温は 16.0℃、最高気温は 40.0℃、最低気温は-4.2℃、平均風速は 2.5m/s、最多風向は西北西、年間降水量は 1,251.0 mm である。

表 3-2-1-1 気象の状況（熊谷地域気象観測所）

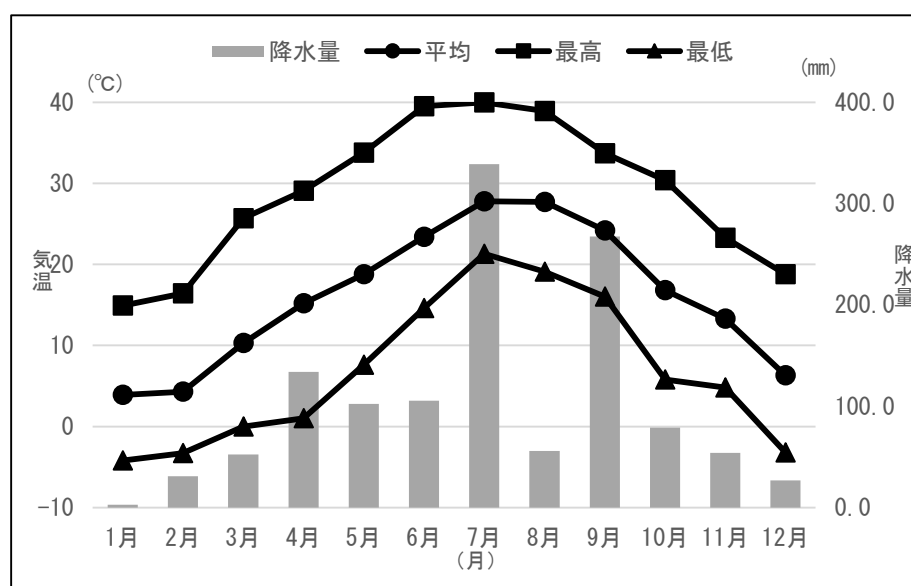
| 年 | 気温（℃） | | | 平均風速 (m/s) | 最多風向 | 降水量 (mm) |
|---------|-------|------|------|---------------|------|-------------|
| | 平均 | 最高 | 最低 | | | |
| 平成 25 年 | 15.6 | 39.3 | -4.8 | 2.7 | 北西 | 1,251.0 |
| 平成 26 年 | 15.3 | 38.8 | -4.7 | 2.6 | 北西 | 1,387.5 |
| 平成 27 年 | 16.0 | 38.6 | -4.6 | 2.5 | 西北西 | 1,335.0 |
| 平成 28 年 | 15.9 | 37.3 | -5.7 | 2.4 | 西北西 | 1,301.0 |
| 平成 29 年 | 15.4 | 37.8 | -5.3 | 2.6 | 西北西 | 1,308.5 |
| 平成 30 年 | 16.4 | 41.1 | -5.3 | 2.4 | 西北西 | 1,056.0 |
| 令和元年 | 16.1 | 38.4 | -4.3 | 2.6 | 北西 | 1,460.5 |
| 令和 2 年 | 16.2 | 39.6 | -5.2 | 2.4 | 西北西 | 1,364.0 |
| 令和 3 年 | 16.0 | 37.2 | -6.4 | 2.5 | 西北西 | 1,177.0 |
| 令和 4 年 | 16.0 | 40.0 | -4.2 | 2.5 | 西北西 | 1,251.0 |
| 平均 | 15.9 | 38.8 | -5.1 | 2.5 | 西北西 | 1,289.2 |
| 最大 | 16.4 | 41.1 | -4.2 | 2.7 | — | 1,460.5 |
| 最小 | 15.3 | 37.2 | -6.4 | 2.4 | — | 1,056.0 |

（資料：気象庁ホームページ）

表 3-2-1-2 気象の状況（熊谷地域気象観測所：令和4年）

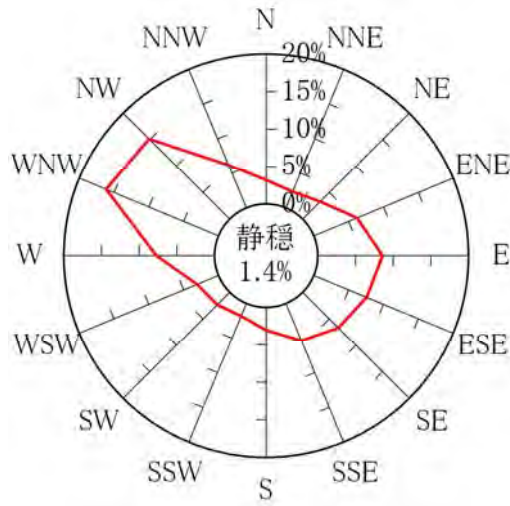
| 月 | 気温（℃） | | | 平均風速 （m/s） | 最多風向 | 最大風速 | | 降水量 （mm） |
|-----|-------|------|------|---------------|------|-------------|-----|-------------|
| | 平均 | 最高 | 最低 | | | 風速 （m/s） | 風向 | |
| 1月 | 3.9 | 14.9 | -4.2 | 3.4 | 西北西 | 11.1 | 西北西 | 3.0 |
| 2月 | 4.3 | 16.4 | -3.3 | 3.1 | 北西 | 10.3 | 北西 | 31.0 |
| 3月 | 10.3 | 25.7 | 0.0 | 2.8 | 北西 | 9.4 | 北西 | 52.5 |
| 4月 | 15.2 | 29.1 | 1.0 | 2.4 | 西北西 | 9.4 | 北西 | 134.0 |
| 5月 | 18.8 | 33.8 | 7.6 | 2.4 | 北西 | 7.5 | 西北西 | 102.5 |
| 6月 | 23.4 | 39.5 | 14.6 | 2.4 | 東 | 9 | 北北東 | 105.5 |
| 7月 | 27.8 | 40.0 | 21.3 | 2.3 | 東 | 9 | 東北東 | 339.0 |
| 8月 | 27.7 | 38.9 | 19.1 | 2.1 | 東南東 | 6.7 | 南南東 | 56.0 |
| 9月 | 24.2 | 33.7 | 16.0 | 2.2 | 東 | 8.9 | 西 | 267.5 |
| 10月 | 16.8 | 30.4 | 5.8 | 1.8 | 西北西 | 6.3 | 西北西 | 79.0 |
| 11月 | 13.3 | 23.3 | 4.8 | 2.1 | 西北西 | 10.3 | 北西 | 54.0 |
| 12月 | 6.3 | 18.8 | -3.2 | 2.4 | 西北西 | 10.3 | 北西 | 27.0 |
| 年間 | 16 | 40 | -4.2 | 2.5 | 西北西 | 11.1 | 北西 | 1,251.0 |

（資料：気象庁ホームページ）



（資料：気象庁ホームページ）

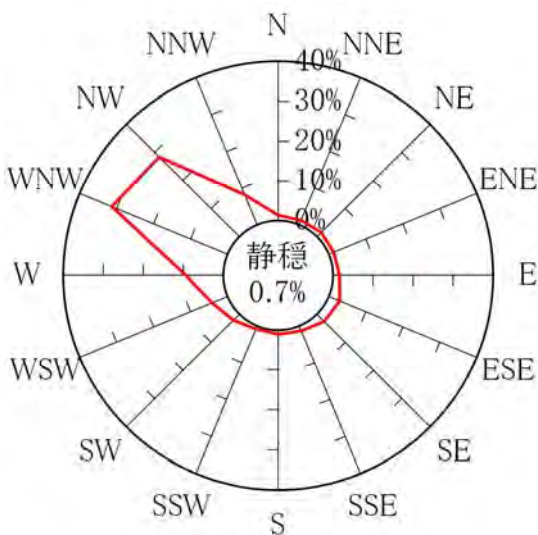
図 3-2-1-1 気温及び降水量の状況（熊谷地域気象観測所：令和4年）



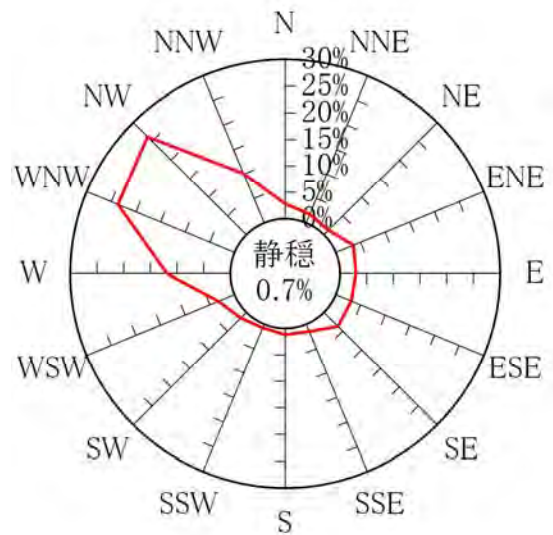
(資料：気象庁ホームページ)

静穏は静穏 (0.3m/s 未満) の割合を示す。

図 3-2-1-2(1) 風配図 (熊谷地域気象観測所：令和 4 年 年間)



1 月

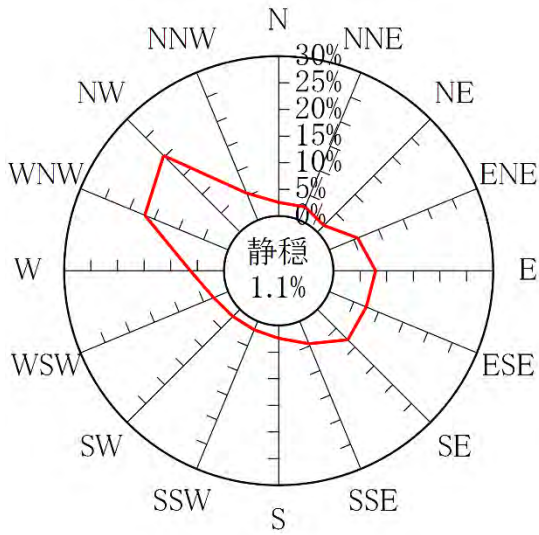


2 月

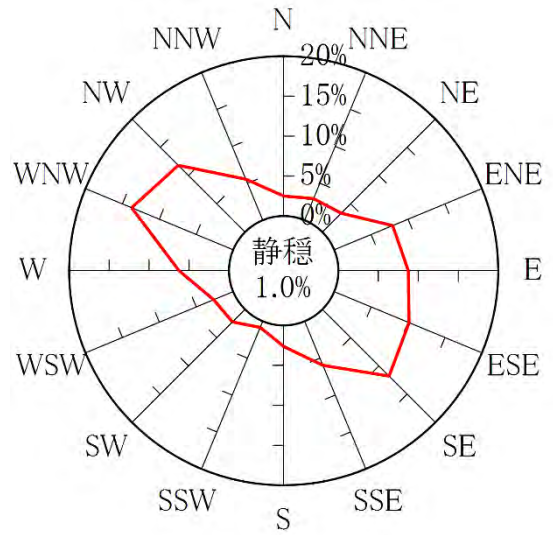
(資料：気象庁ホームページ)

静穏は静穏 (0.3m/s 未満) の割合を示す。

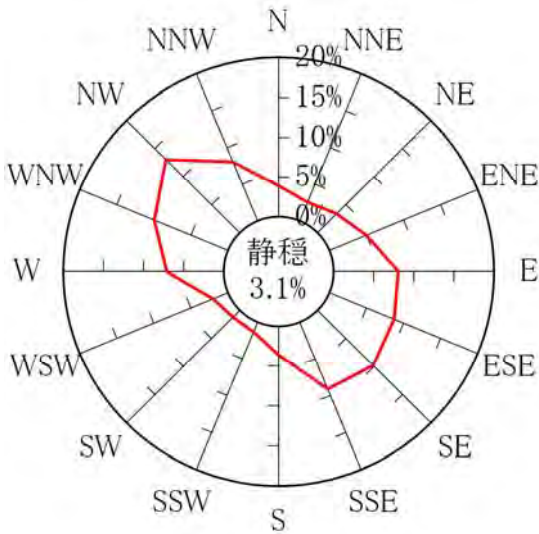
図 3-2-1-2(2) 各月風配図 (熊谷地域気象観測所：令和 4 年各月)



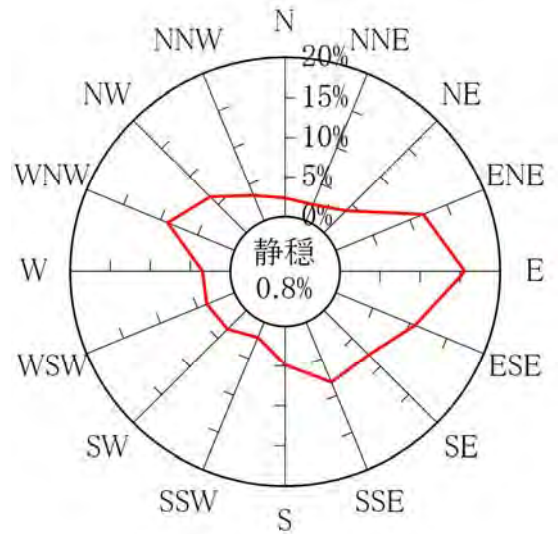
3月



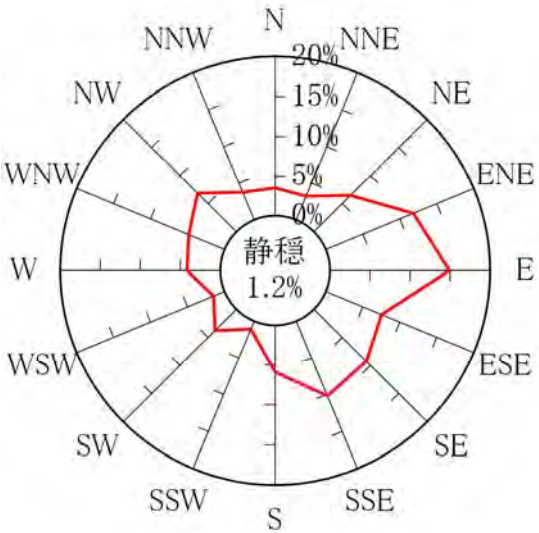
4月



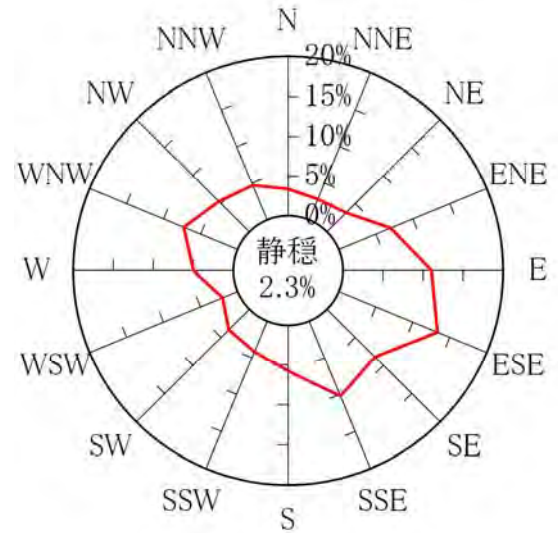
5月



6月



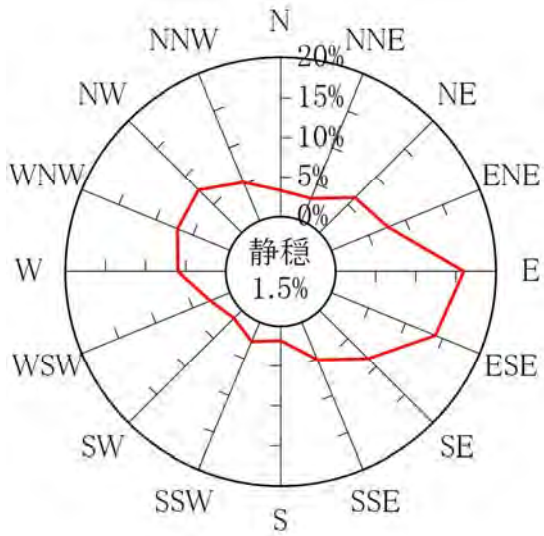
7月



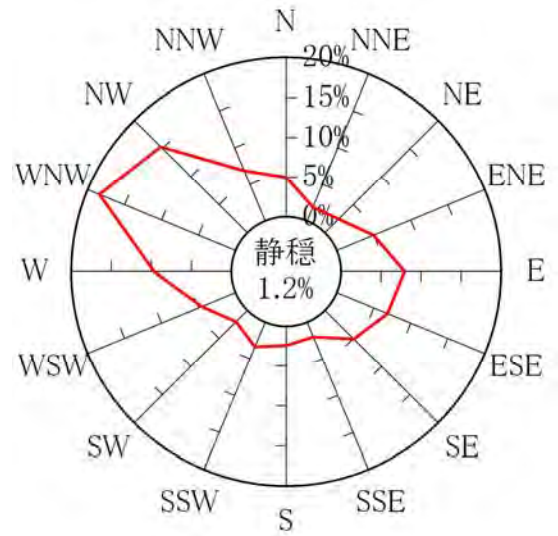
8月

(資料：気象庁ホームページ)
 静穏は静穏 (0.3m/s 未満) の割合を示す。

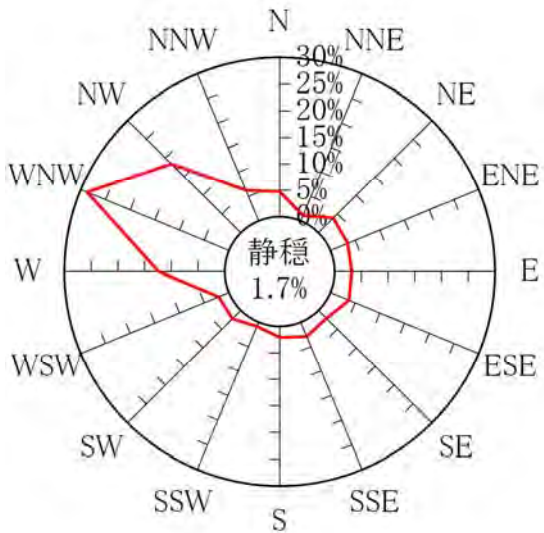
図 3-2-1-2(3) 各月風配図 (熊谷地域気象観測所：令和4年各月)



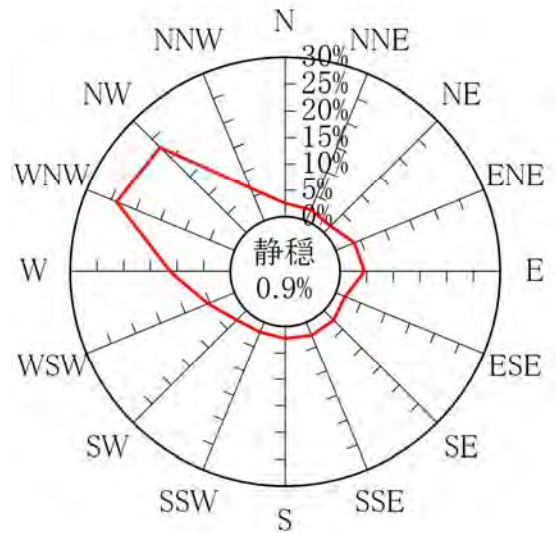
9月



10月



11月



12月

(資料：気象庁ホームページ)
 静穏は静穏 (0.3m/s 未満) の割合を示す。

図 3-2-1-2(4) 各月風配図 (熊谷地域気象観測所：令和4年各月)

2. 大気質

対象事業実施区域周辺には、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）が1測定局（深谷）、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）が1測定局（深谷原郷自排）ある。

なお、一般局の深谷では二酸化硫黄の測定がないことから、熊谷一般局のデータも参考に示す。

各測定局の測定項目を表 3-2-1-3 に、測定局の位置を図 3-2-1-3 に示す。

表 3-2-1-3 測定項目

| 区分 | 測定局 | 測定項目 | | | | | | | |
|-----|--------|--------------------------|--------------------------|---------------|-----------------------------|------------|------------------------------|-----------------|---------------|
| | | 二酸化硫黄 (SO ₂) | 窒素酸化物 (NO _x) | 浮遊粒子状物質 (SPM) | 光化学オキシダント (O _x) | 一酸化炭素 (CO) | 微小粒子状物質 (PM _{2.5}) | 非メタン炭化水素 (NMHC) | ダイオキシン類 (DXN) |
| 一般局 | 深谷 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| | 熊谷 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 自排局 | 深谷原郷自排 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | |

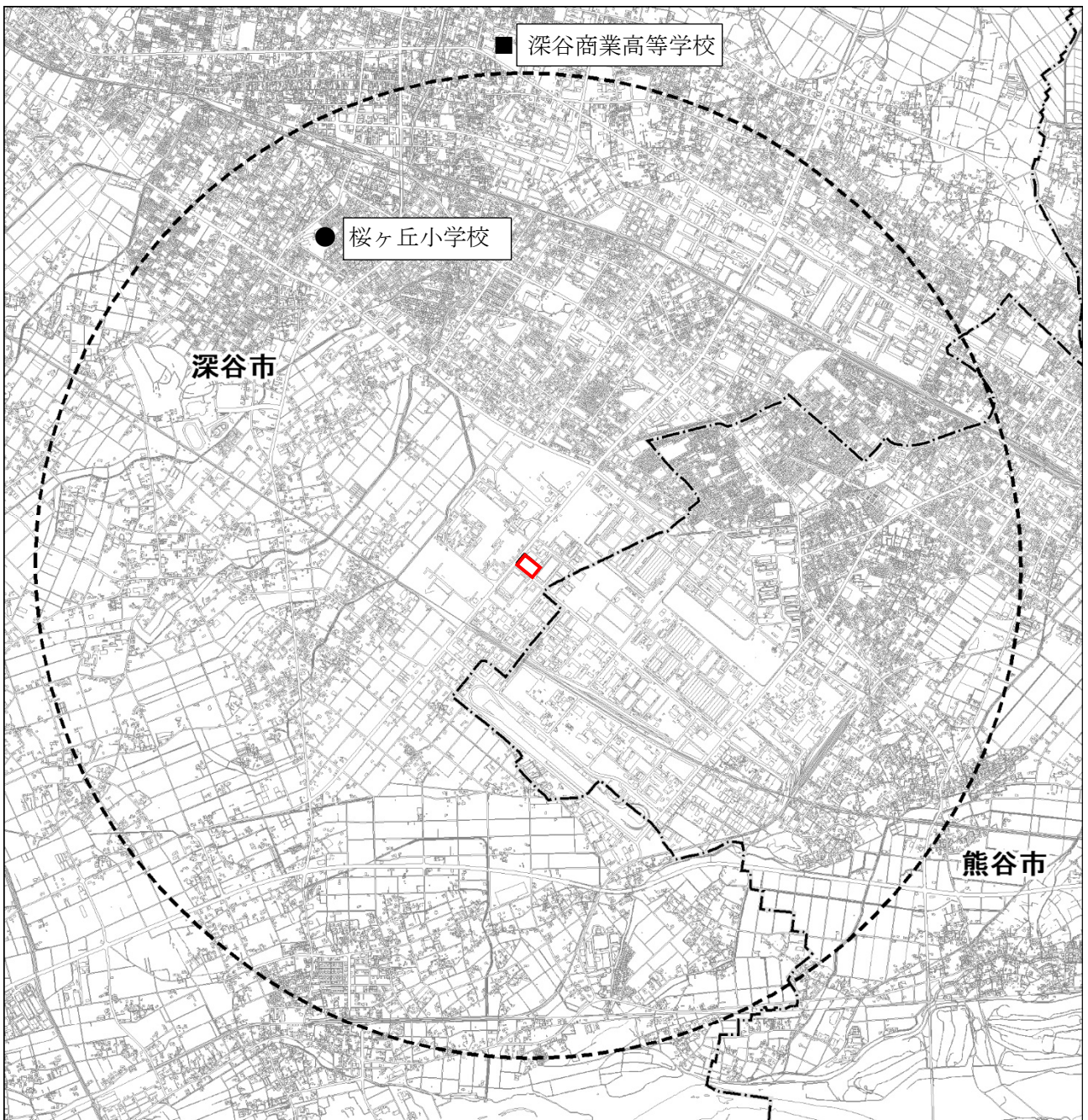
(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書、大気環境調査結果)

測定局の場所は以下のとおりである。

深谷：桜ヶ丘小学校

熊谷：熊谷市役所

深谷原郷自排：深谷商業高等学校



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

- : 一般局
- : 自排局

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000
m



図 3-2-1-3 大気汚染常時監視局位置図

1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄の令和元年度における測定結果は、表 3-2-1-4 に示すとおりであり、環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における二酸化硫黄の経年変化は、図 3-2-1-4 に示すとおりである。1 日平均値の 2%除外値はほぼ横ばいで推移し、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3-2-1-4 二酸化硫黄の測定結果（令和元年度）

| 区分 | 測定局 | 1 年 平均値 (ppm) | 1 日平均 値の 2% 除外値 (ppm) | 1 日平均値 が 0.04ppm を超えた日 が 2 日以上 連続したこ との有無 | 1 日平均値 が 0.04ppm を超えた 日数 (日) | 1 時間値 の最大値 (ppm) | 環境基準 | |
|-----|-----|---------------------|--------------------------------|--|--|------------------------|-----------|-----------|
| | | | | | | | 長期的 評価 | 短期的 評価 |
| 一般局 | 熊谷 | 0.001 未満 | 0.001 | 無 | 0 | 0.005 | ○ | ○ |

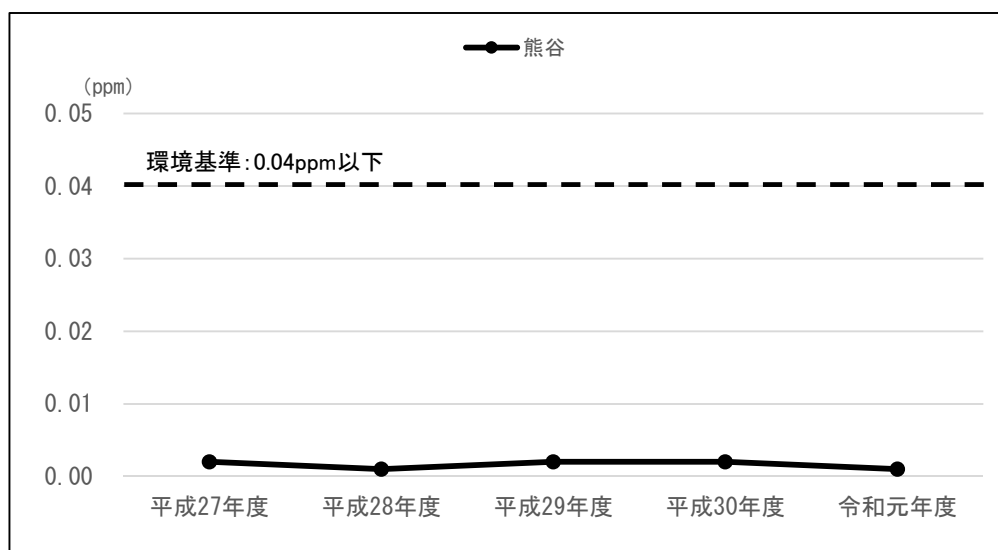
(資料：令和元年度 大気汚染常時監視測定結果報告書)

環境基準及び評価方法は、以下のとおりである。

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

長期的評価：「1 時間値の 1 日平均値の 2%除外値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 日平均値が 0.04ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと」を達成した場合には「○」、達成しない場合は「×」。

短期的評価：「1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。



(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書)

図 3-2-1-4 二酸化硫黄の経年変化 (2%除外値)

2) 二酸化窒素

二酸化窒素の令和元年度における測定結果は、表 3-2-1-5 に示すとおりであり、各測定局ともに環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における二酸化窒素の経年変化は、図 3-2-1-5 に示すとおりである。各測定局ともに 1 日平均値の年間 98% 値はほぼ横ばいで推移し、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3-2-1-5 二酸化窒素の測定結果（令和元年度）

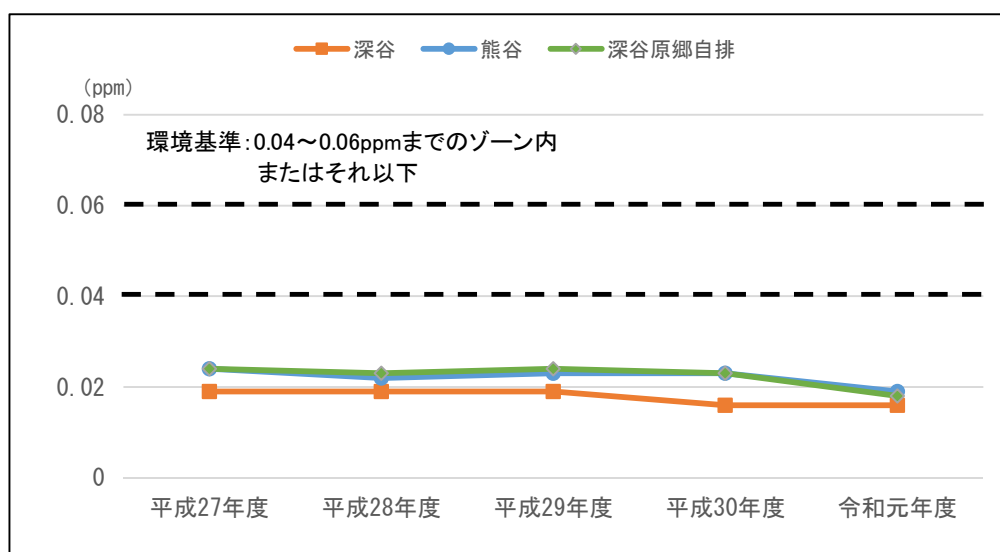
| 区分 | 測定局 | 1 年平均値 (ppm) | 1 日平均値の 年間 98% 値 (ppm) | 環境基準 |
|-----|--------|-----------------|------------------------------|------|
| 一般局 | 深谷 | 0.008 | 0.016 | ○ |
| | 熊谷 | 0.008 | 0.019 | ○ |
| 自排局 | 深谷原郷自排 | 0.009 | 0.018 | ○ |

(資料：令和元年度 大気汚染常時監視測定結果報告書)

環境基準及び評価方法は、以下のとおりである。

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

評価：「1 時間値の 1 日平均値の年間 98% 値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。



(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書)

図 3-2-1-5 二酸化窒素の経年変化 (年間 98% 値)

3) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の令和元年度における測定結果は、表 3-2-1-6 に示すとおりであり、各測定局ともに環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における浮遊粒子状物質の経年変化は、図 3-2-1-6 に示すとおりである。各測定局ともに 1 日平均値の 2% 除外値はやや減少傾向で推移し、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3-2-1-6 浮遊粒子状物質の測定結果（令和元年度）

| 区分 | 測定局 | 1 年 平均値 (mg/m ³) | 1 日平均 値の 2% 除外値 (mg/m ³) | 1 日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 が 2 日以上 連続したこ との有無 | 1 日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日数 (日) | 1 時間値 の最大値 (mg/m ³) | 環境基準 | |
|-----|--------|------------------------------------|---|---|---|---------------------------------------|-----------|-----------|
| | | | | | | | 長期的 評価 | 短期的 評価 |
| 一般局 | 深谷 | 0.011 | 0.033 | 無 | 0 | 0.095 | ○ | ○ |
| | 熊谷 | 0.016 | 0.036 | 無 | 0 | 0.115 | ○ | ○ |
| 自排局 | 深谷原郷自排 | 0.014 | 0.033 | 無 | 0 | 0.066 | ○ | ○ |

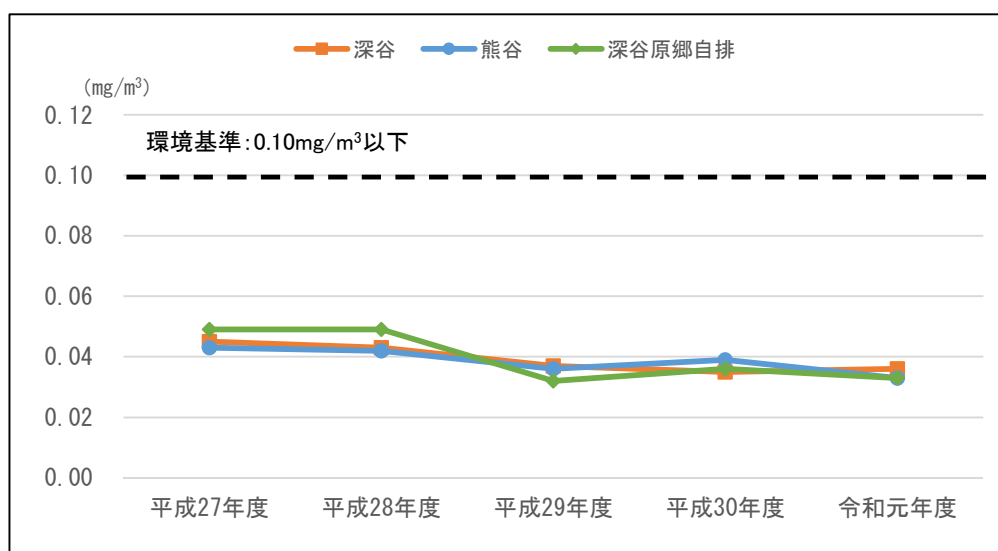
(資料：令和元年度 大気汚染常時監視測定結果報告書)

環境基準及び評価方法は、以下のとおりである。

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

長期的評価：「1 時間値の 1 日平均値の 2% 除外値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 日平均値が 0.10mg/m³ を超える日が 2 日以上連続しないこと」を達成した場合には「○」、達成しない場合は「×」。

短期的評価：「1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。



(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書)

図 3-2-1-6 浮遊粒子状物質の経年変化 (2%除外値)

4) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの令和元年度における測定結果は、表 3-2-1-7 に示すとおりであり、各測定局ともに環境基準を達成していない。

平成 27 年度から令和元年度における光化学オキシダントの経年変化は、図 3-2-1-7 に示すとおりである。昼間 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数は、深谷測定局では平成 29 年度より減少に転じており、熊谷局では平成 30 年度より減少に転じている。

表 3-2-1-7 光化学オキシダントの測定結果（令和元年度）

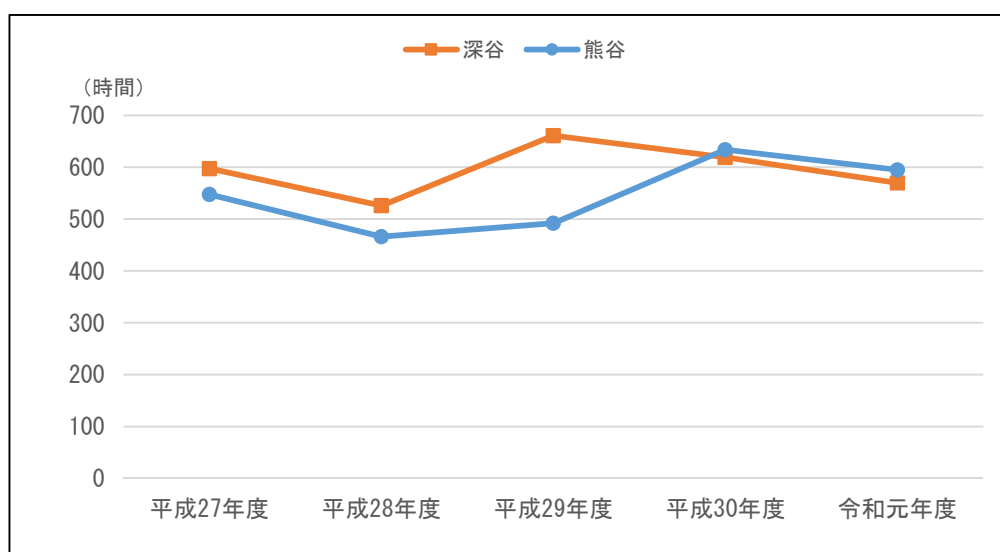
| 区分 | 測定局 | 昼間の 1 時間値 の 1 年平均値 (ppm) | 昼間の 1 時間値 が 0.06ppm を 超えた時間数 (時間) | 昼間の 1 時間値 が 0.12ppm を 超えた時間数 (時間) | 環境基準 |
|-----|-----|--------------------------------|--|--|------|
| 一般局 | 深谷 | 0.037 | 570 | 1 | × |
| | 熊谷 | 0.036 | 595 | 4 | × |

(資料：令和元年度 大気汚染常時監視測定結果報告書)

環境基準及び評価方法は、以下のとおりである。

環境基準：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

評価：「昼間（5 時～20 時）の 1 時間値が 0.06ppm 以下であること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。



(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書)

図 3-2-1-7 光化学オキシダントの経年変化 (昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数)

5) 一酸化炭素

一酸化炭素の令和元年度における測定結果は、表 3-2-1-8 に示すとおりであり、環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における一酸化炭素の経年変化は、図 3-2-1-8 に示すとおりである。1 日平均値の 2%除外値はほぼ横ばいで推移し、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3-2-1-8 一酸化炭素の測定結果（令和元年度）

| 区分 | 測定局 | 1年 平均値 (ppm) | 1日平均 値の2% 除外値 (ppm) | 1日平均値 が10ppmを 超えた日が 2日以上連 続したこと の有無 | 8時間平均値 が20ppmを 超えた回数 (回) | 1時間値の 日平均値が 10ppmを 超えた日 数 (日) | 環境基準 | |
|-----|-----|--------------------|------------------------------|--|-----------------------------------|--|-----------|-----------|
| | | | | | | | 長期的 評価 | 短期的 評価 |
| 一般局 | 熊谷 | 0.2 | 0.4 | 無 | 0 | 0 | ○ | ○ |

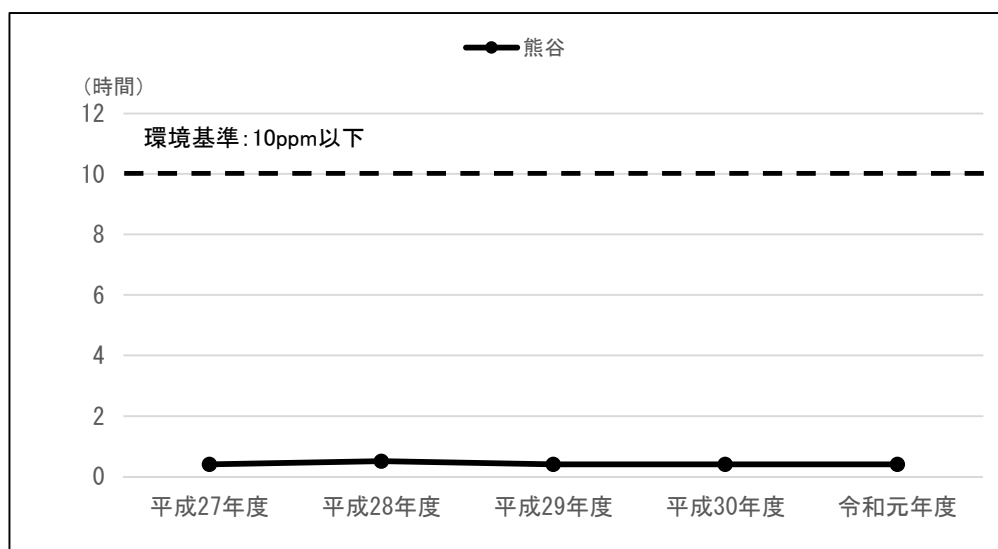
(資料：令和元年度 大気汚染常時監視測定結果報告書)

環境基準及び評価方法は、以下のとおりである。

環境基準：1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。

長期的評価：「1時間値の1日平均値の2%除外値が10ppm以下であり、かつ、1日平均値が10ppmを超える日が2日以上連続しないこと」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

短期的評価：「1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、午前0時～午前8時、午前8時～午後4時、午後4時～午後12時の各時間帯8時間平均値が20ppm以下であること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。ただし、各時間帯の8時間のうち有効測定時間が6時間以上ある場合のみ評価対象とする。



(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書)

図 3-2-1-8 一酸化炭素の経年変化 (2%除外値)

6) 微小粒子状物質

微小粒子状物質の令和元年度における測定結果は、表 3-2-1-9 に示すとおりであり、各測定局ともに環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における微小粒子状物質の経年変化は、図 3-2-1-9 に示すとおりである。各測定局ともに 1 日平均値の年間 98% 値は減少傾向である。

表 3-2-1-9 微小粒子状物質の測定結果（令和元年度）

| 区分 | 測定局 | 1 年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) | 1 日平均値の 年間 98% 値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) | 環境基準 | |
|-----|--------|--|---|------|------|
| | | | | 長期基準 | 短期基準 |
| 一般局 | 深谷 | 10.2 | 25.4 | ○ | ○ |
| | 熊谷 | 10.1 | 24.1 | ○ | ○ |
| 自排局 | 深谷原郷自排 | 11.0 | 24.0 | ○ | ○ |

(資料：令和元年度 大気汚染常時監視測定結果報告書)

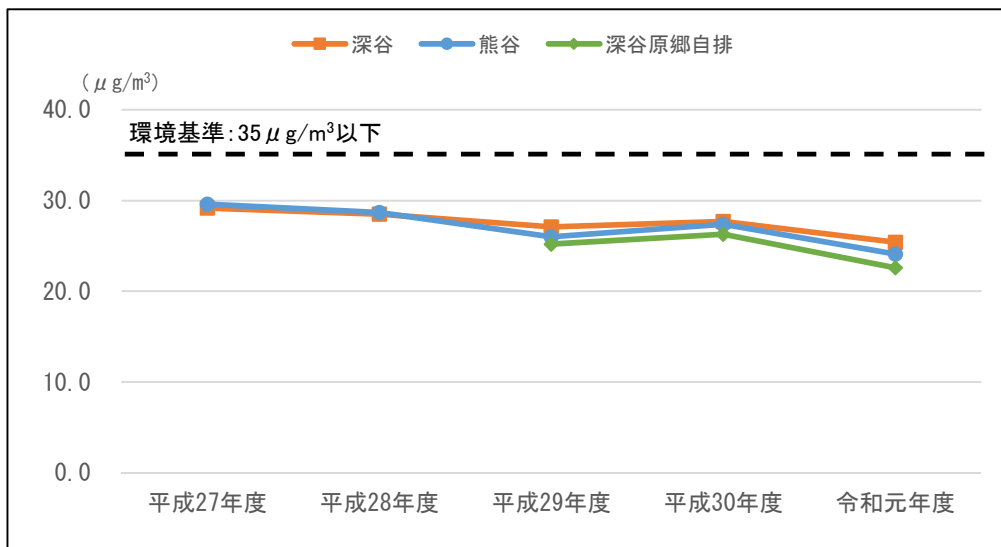
環境基準及び評価方法は、以下のとおりである。

環境基準：1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

長期基準：「1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」を達成した場合には「○」、達成しない場合は「×」。ただし、1 日のうち有効測定時間が 20 時間以上ある日が 250 日以上ある場合のみを評価対象とする。

短期基準：「1 時間の 1 日平均値の 98% 値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

環境基準の欄に「—」表示がある場合は、有効測定局ではなく環境基準の評価を行っていないことを示す。



(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書)

図 3-2-1-9 微小粒子状物質の経年変化 (年間 98% 値)

7) 非メタン炭化水素

非メタン炭化水素の令和元年度における測定結果は、表 3-2-1-10 に示すとおりであり、指針値を上回っている。

平成 27 年度から令和元年度における非メタン炭化水素の 6 時～9 時の 3 時間平均値が 0.31ppmC を超えた日数の経年変化は、図 3-2-1-10 に示すとおりであり、年度によってばらつきがある。

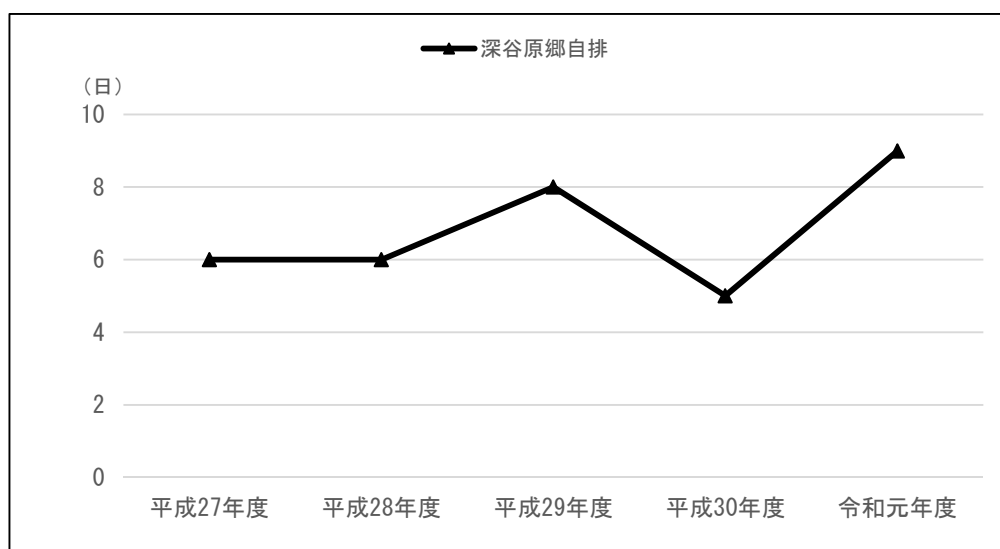
表 3-2-1-10 非メタン炭化水素の測定結果（令和元年度）

| 区分 | 測定局 | 6 時～9 時の測定日数 (日) | 6 時～9 時の 1 年平均値 (ppmC) | 6 時～9 時の 3 時間平均値 (ppmC) | | 6 時～9 時の平均 値が 0.31ppmC を 超えた日数 (日) | 指針値 |
|-----|--------|---------------------|------------------------------|-------------------------------|------|---|-----|
| | | | | 最高値 | 最低値 | | |
| 自排局 | 深谷原郷自排 | 358 | 0.12 | 0.91 | 0.00 | 9 | × |

(資料：令和元年度 大気汚染常時監視測定結果報告書)

指針値は、以下のとおりである。

「午前 6 時から 9 時までの非メタン炭化水素の 3 時間平均値は、0.20ppmC から 0.31ppmC の範囲にあること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。



(資料：大気汚染常時監視測定結果報告書)

図 3-2-1-10 非メタン炭化水素の経年変化 (6 時～9 時の 3 時間平均値が 0.31ppmC を超えた日数)

8) ダイオキシン類

ダイオキシン類の令和3年度における測定結果は、表3-2-1-11に示すとおりであり、環境基準を達成している。

平成29年度から令和3年度におけるダイオキシン類の経年変化は、図3-2-1-11に示すとおりである。各年とも、平均値は横ばいで推移しており、いずれの年度も環境基準を達成している。

表3-2-1-11 ダイオキシン類の測定結果（令和3年度）

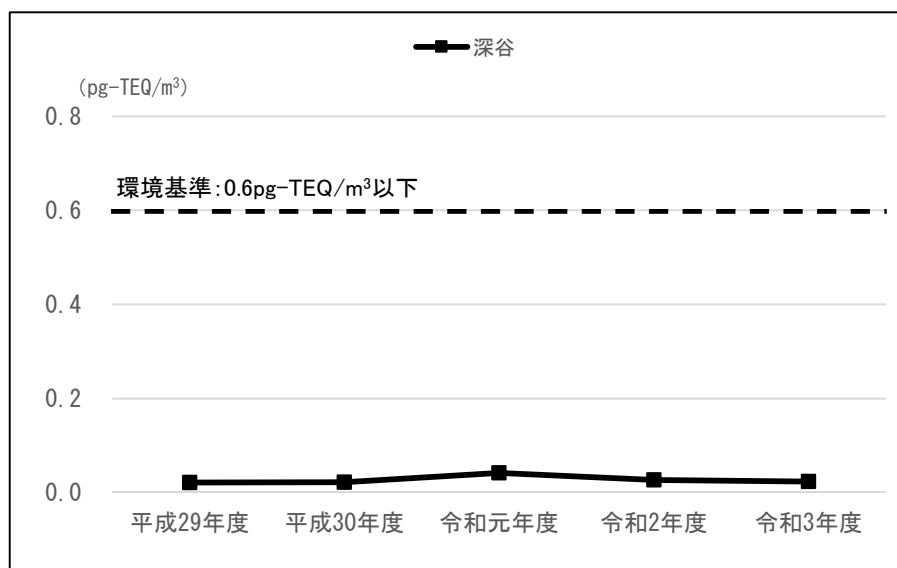
| 地域分類 | 調査地点 | 調査結果 (pg-TEQ/m ³) | | | | | 環境基準 |
|------|------|-------------------------------|-------|-------|-------|-------|------|
| | | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 平均値 | |
| 一般 | 深谷局 | 0.023 | 0.023 | 0.032 | 0.013 | 0.023 | ○ |

(資料：令和3年度 ダイオキシン類大気常時監視結果)

環境基準は、以下のとおりである。

環境基準：1年平均値が0.6pg-TEQ/m³以下であること。

ダイオキシン類濃度は、最も毒性が強い「2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン (2,3,7,8-TCDD)」の毒性を単位として換算した値。



(資料：ダイオキシン類大気常時監視結果)

図3-2-1-11 ダイオキシン類の経年変化（年間平均値）

3. 騒音・振動・低周波音

1) 環境騒音・振動

調査範囲及びその周辺において、環境騒音・振動の調査は行われていない。

2) 自動車交通騒音・道路交通振動

調査範囲及びその周辺における平成 30 年度の自動車交通騒音の環境基準適合状況を表 3-2-1-12 に示し、自動車交通騒音の調査路線を図 3-2-1-12 に示す。

自動車交通騒音はすべて地点で環境基準を達成している。

なお、調査範囲及びその周辺において、道路交通振動の調査は行われていない。

表 3-2-1-12 自動車交通騒音の環境基準適合状況（点的評価）

| No. | 路線名 | 調査地点 | 環境基準類型 | 車線数 | 幹線道路の近接空間 | 等価騒音レベル (dB) | | | | 環境基準適合状況 |
|-----|-----------|---------------|--------|-----|-----------|--------------|--------|----|--------|----------|
| | | | | | | 昼間 | 環境基準達成 | 夜間 | 環境基準達成 | |
| 1 | 県道深谷東松山線 | 深谷市原郷 | C | 2 | ○ | 63 | ○ | 58 | ○ | ○ |
| 2 | 県道美土里町新堀線 | 熊谷市新堀新田 | C | 2 | ○ | 68 | ○ | 65 | ○ | ○ |
| 3 | 県道深谷東松山線 | 熊谷市三ヶ尻 2868-1 | B | 2 | ○ | 64 | ○ | 60 | ○ | ○ |

（資料：平成 30 年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査（埼玉県ホームページ））

幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準：昼間 70dB、夜間 65dB

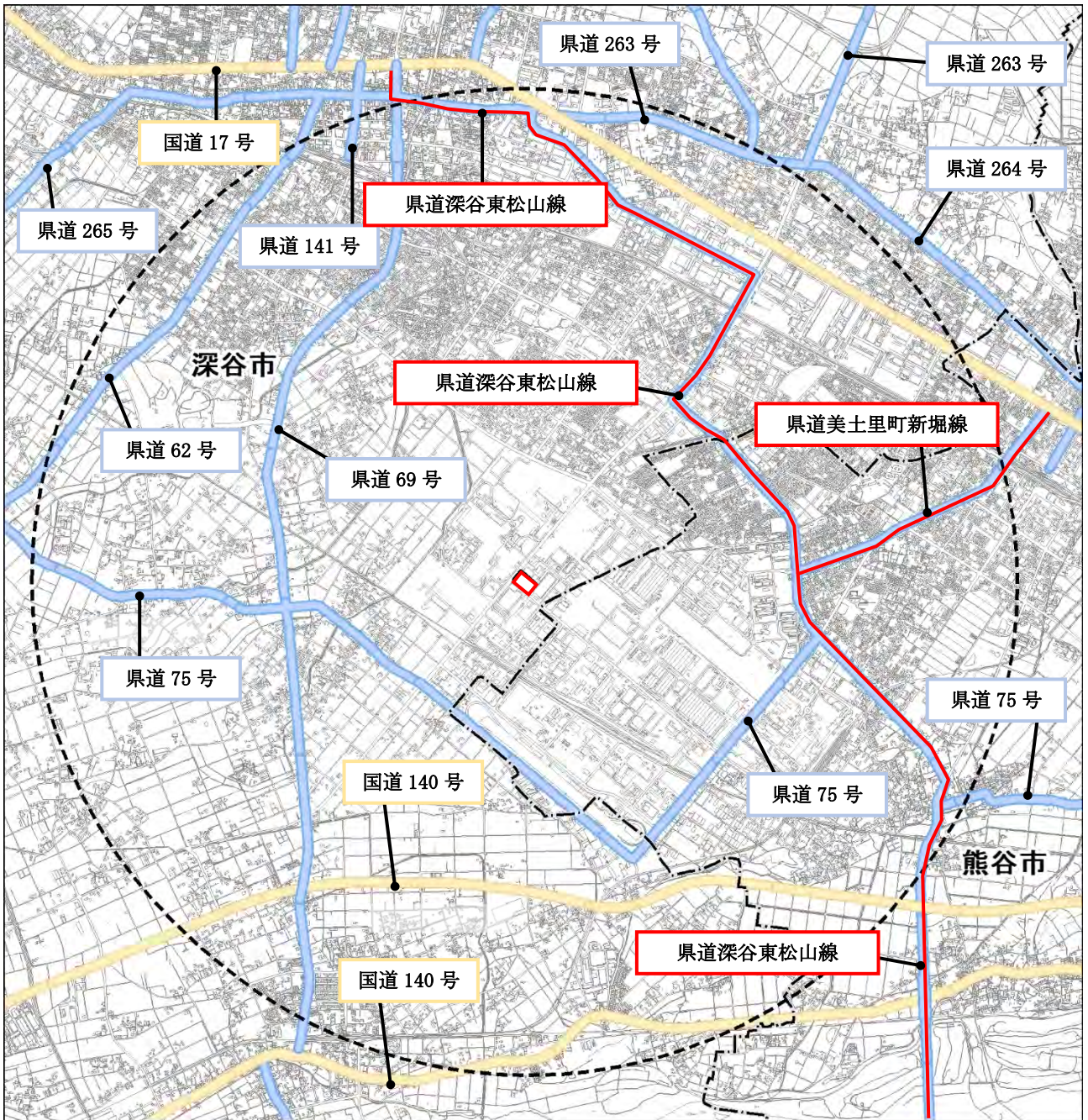
幹線道路の近接空間の欄の○は、測定地点が当該空間に含まれることを示す。

3) 低周波音

調査範囲及びその周辺において、低周波音の調査は行われていない。

4. 悪臭

調査範囲及びその周辺において、悪臭の調査は行われていない。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界
- 国道
- 都道府県道
- 調査路線

資料：深谷市ホームページ
熊谷市ホームページ

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m

N



図 3-2-1-12 自動車交通騒音調査路線図

3-2-2 水象、水質、底質その他の水に係る環境の状況

1. 水象

調査範囲及びその周辺の河川等の状況は、図 3-2-2-1 に示すとおりである。

調査範囲及びその周辺には、一級河川の荒川、唐沢川、福川が流れている。

対象事業実施区域の西側を流れる唐沢川は、河川延長が約 3.5km で、源流は深谷市内にあり、深谷市成塚で小山川へ合流する。

2. 水質

1) 河川

調査範囲及びその周辺の水質測定地点の概要は表 3-2-2-1 に、水質測定地点は図 3-2-2-1 に示すとおりであり、上唐沢川 (2 地点)、下唐沢川 (1 地点)、前川 (1 地点)、櫛挽排水路 (1 地点)、荒川 (1 地点) で測定が行われている。

上唐沢川及び下唐沢川の平成 29 年度から令和 3 年度における測定結果を表 3-2-2-2(1) ~ 表 3-2-2-2(3) に示す。

環境基準が適用される下唐沢川の永徳屋橋では、平成 29 年度、平成 30 年度、令和 3 年度の pH と、令和 3 年度の BOD が環境基準を達成していない。

また、前川、櫛引排水路は平成 30 年度から調査が実施されていることから平成 30 年度から令和 3 年度における測定結果を表 3-2-2-2(4) ~ 表 3-2-2-2(5) に示す。

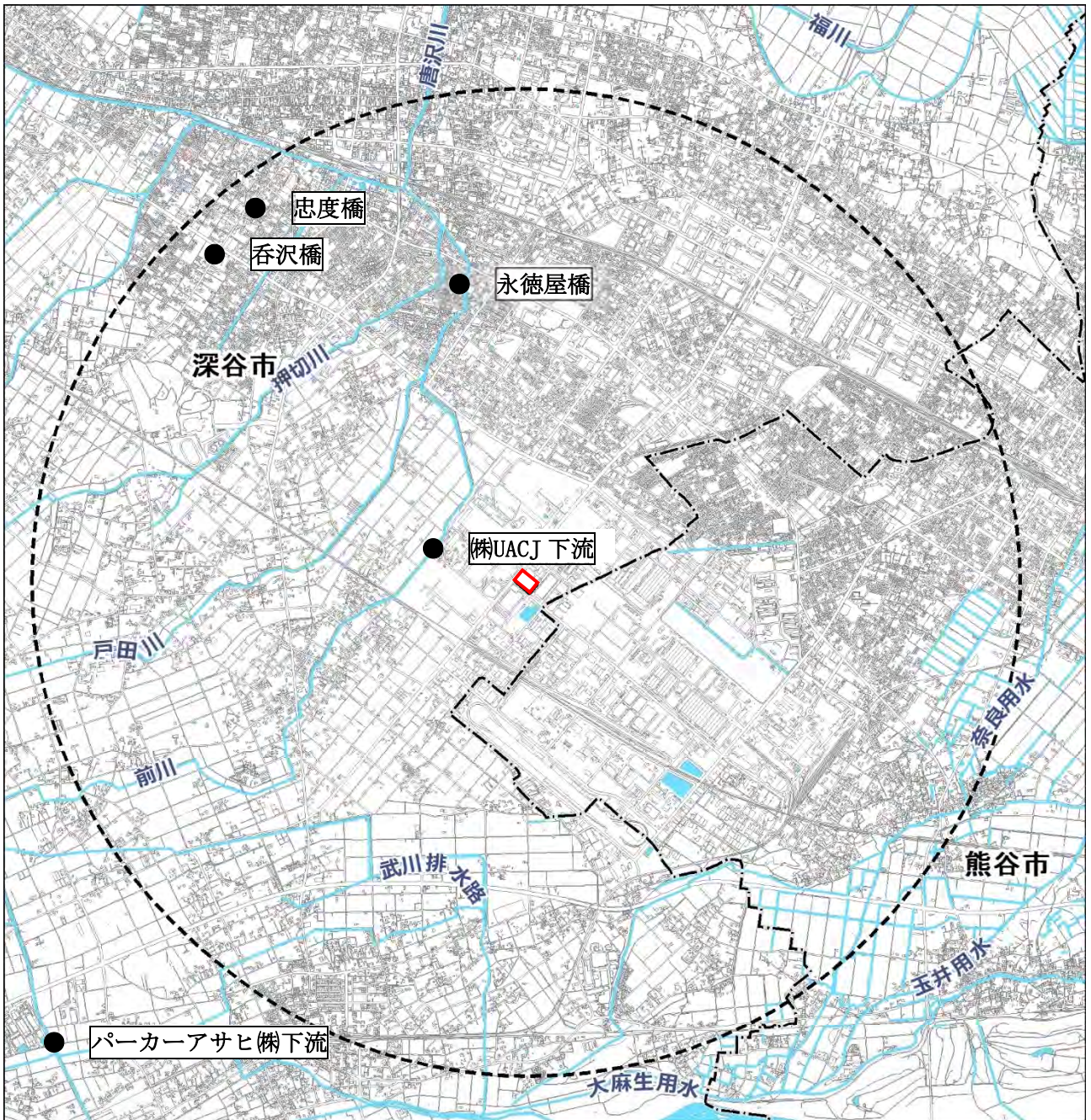
荒川は平成 30 年度から令和 2 年度における測定結果を表 3-2-2-3 に示す。

環境基準が適用される荒川の押切橋上流では、大腸菌群数が環境基準を達成していない。

表 3-2-2-1 水質測定地点の概要

| 河川名 | 測定地点 | 所在地 | 測定対象 | 環境基準類型 | |
|-------|-------------|-----|-----------------------------------|--------|------|
| 上唐沢川 | 呑沢橋 | 深谷市 | 生活環境項目 (大腸菌群数を除く) | — | — |
| | 忠度橋 | 深谷市 | 生活環境項目 (大腸菌群数を除く) | — | — |
| 下唐沢川 | 永徳屋橋 | 深谷市 | 生活環境項目 (大腸菌群数を除く) | B | 生物 B |
| 前川 | (株)UACJ 下流 | 深谷市 | 生活環境項目 (大腸菌群数を除く) | — | — |
| 櫛挽排水路 | パークアサヒ(株)下流 | 深谷市 | 生活環境項目 (大腸菌群数を除く) | — | — |
| 荒川 | 押切橋上流 | 熊谷市 | 生活環境項目 T-N、T-P、Cd、CN、Pb、Cr(VI) | A | 生物 B |

(資料：深谷市の環境、：熊谷市環境白書)



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界
- 河川
- 河川・用水路等
- 水質調査地点

資料：深谷市ホームページ
熊谷市ホームページ

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m



図 3-2-2-1 河川等図及び水質・ダイオキシン類測定地点図

表 3-2-2-2(1) 水質調査結果（上唐沢川：呑沢橋）

| 項目 | 測定結果（年平均値） | | | | |
|-------------------------|------------|----------|-------|---------|---------|
| | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
| 水素イオン濃度 (pH) | 8.2 | 8.4 | 8.2 | 8.3 | 8.3 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L) | 16.9 | 2.8 | 2.8 | 2.8 | 2.9 |
| 化学的酸素要求量 (COD) (mg/L) | 17.9 | 5.0 | 4.3 | 4.8 | 5.2 |
| 浮遊物質 (SS) (mg/L) | 7.8 | 7.6 | 8.2 | 13.9 | 8.5 |
| 溶存酸素量 (DO) (mg/L) | 9.1 | 9.4 | 9.4 | 10.6 | 9.8 |

(資料：深谷市の環境)

表 3-2-2-2(2) 水質調査結果（上唐沢川：忠度橋）

| 項目 | 測定結果（年平均値） | | | | |
|-------------------------|------------|----------|-------|---------|---------|
| | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
| 水素イオン濃度 (pH) | 7.5 | 7.3 | 7.4 | 7.0 | 7.0 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L) | 28.7 | 48.4 | 25.7 | 69.9 | 67.4 |
| 化学的酸素要求量 (COD) (mg/L) | 24.1 | 19.0 | 21.8 | 47.2 | 49.5 |
| 浮遊物質 (SS) (mg/L) | 15.1 | 14.9 | 13.5 | 29.6 | 41.7 |
| 溶存酸素量 (DO) (mg/L) | 6.2 | 4.4 | 5.0 | 3.8 | 3.5 |

(資料：深谷市の環境)

表 3-2-2-2(3) 水質調査結果（下唐沢川：永徳屋橋）

| 項目 | 測定結果（年平均値） | | | | | 環境基準 |
|-------------------------|------------|----------|-------|---------|---------|------------------|
| | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | |
| 水素イオン濃度 (pH) | 8.6 | 8.7 | 8.5 | 8.5 | 8.7 | 6.5 以上 8.5 以下 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L) | 2.2 | 1.8 | 2.4 | 1.8 | 4.3 | 3mg/L 以下 |
| 化学的酸素要求量 (COD) (mg/L) | 4.3 | 4.5 | 4.1 | 4.3 | 5.0 | — |
| 浮遊物質 (SS) (mg/L) | 5.9 | 6.1 | 5.4 | 12.1 | 7.2 | 25mg/L 以下 |
| 溶存酸素量 (DO) (mg/L) | 10.3 | 10.4 | 9.7 | 10.8 | 11.0 | 5mg/L 以上 |

(資料：深谷市の環境)

網掛けは、環境基準を達成していないものを示す。

表 3-2-2-2(4) 水質調査結果（前川：(株)UACJ 下流）

| 項目 | 測定結果（年平均値） | | | |
|-------------------------|------------|-------|---------|---------|
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
| 水素イオン濃度 (pH) | 8.5 | 8.2 | 8.1 | 8.3 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L) | 1.1 | 1.4 | 1.5 | 1.8 |
| 化学的酸素要求量 (COD) (mg/L) | 4.0 | 3.6 | 4.6 | 4.6 |
| 浮遊物質 (SS) (mg/L) | 3.9 | 4.8 | 13.5 | 5.3 |
| 溶存酸素量 (DO) (mg/L) | 8.9 | 9.2 | 9.6 | 9.4 |

(資料：深谷市の環境)

表 3-2-2-2(5) 水質調査結果（櫛挽排水路：パークアサヒ(株)下流）

| 項目 | 測定結果（年平均値） | | | |
|-------------------------|------------|-------|---------|---------|
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
| 水素イオン濃度 (pH) | 9.3 | 8.8 | 8.5 | 8.8 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L) | 1.5 | 1.5 | 2.5 | 2.2 |
| 化学的酸素要求量 (COD) (mg/L) | 3.8 | 3.2 | 4.2 | 5.8 |
| 浮遊物質 (SS) (mg/L) | 5.0 | 4.2 | 12.8 | 21.5 |
| 溶存酸素量 (DO) (mg/L) | 12.9 | 12.8 | 12.8 | 12.7 |

(資料：深谷市の環境)

表 3-2-2-3 水質調査結果（荒川：押切橋上流）

| 項目 | 測定結果（年平均値） | | | 環境基準 |
|-------------------------|------------|---------|---------|----------------------|
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | |
| 水素イオン濃度 (pH) | 8.3 | 8.2 | 8.3 | 6.5 以上 8.5 以下 |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L) | 2.8 | 0.7 | 1.0 | 2mg/L 以下 |
| 化学的酸素要求量 (COD) (mg/L) | — | — | — | — |
| 浮遊物質 (SS) (mg/L) | 2 | 3 | 2 | 25mg/L 以下 |
| 溶存酸素量 (DO) (mg/L) | 10.5 | 9.5 | 10.7 | 7.5mg/L 以上 |
| 大腸菌群数 (MPN/100mL) | 1,588 | 8,375 | 19,575 | 1,000 MPN/100m 以下 |
| 全窒素 (T-N) (mg/L) | 1.9 | 2.0 | 1.6 | — |
| 全りん (T-P) (mg/L) | 0.08 | 0.063 | 0.062 | — |
| カドミウム (Cd) (mg/L) | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | 0.003 |
| 全シアン (CN) (mg/L) | 不検出 | 不検出 | 不検出 | 検出されない こと |
| 鉛 (Pb) (mg/L) | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 |
| 六価クロム (Cr (VI)) (mg/L) | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.02 |

(資料：熊谷市環境白書)

網掛けは、環境基準を達成していないものを示す。

押切橋上流は pH～T-P まで年 2～4 回の調査の平均値、Cd～Cr (VI) は年一回の調査の値となる。

2) 地下水

調査範囲及びその周辺の平成 29 年度における地下水の概況調査結果を表 3-2-2-4 に、平成 30 年度から令和 2 年度の継続調査結果を表 3-2-2-5 に示す。

調査範囲及びその周辺の概況調査は深谷市折之口で行われており、平成 29 年度の調査では、環境基準を超過した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、調査を実施していないアルキル水銀以外の項目で環境基準を達成していた。

調査範囲及びその周辺の継続調査も深谷市折之口で行われており、1,2-ジクロロエチレン及びトリクロロエチレンは平成 30 年度、テトラクロロエチレンは平成 30 年度、令和元年度、令和 2 年度で環境基準を達成していない。

表 3-2-2-4 地下水の概況調査結果（平成 29 年度）

（単位：mg/L）

| 調査地区名 | 項目 | 測定結果 | 環境基準 |
|------------|---------------------------------|---------|-----------|
| 深谷市 折之口 | カドミウム | <0.0003 | 0.003 以下 |
| | 全シアン | <0.1 | 検出されないこと。 |
| | 鉛 | <0.001 | 0.01 以下 |
| | 六価クロム | <0.005 | 0.05 以下 |
| | 砒素 | <0.001 | 0.01 以下 |
| | 総水銀 | <0.0005 | 0.0005 以下 |
| | アルキル水銀 | — | 検出されないこと。 |
| | PCB | <0.0005 | 検出されないこと。 |
| | ジクロロメタン | <0.002 | 0.02 以下 |
| | 四塩化炭素 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| | クロロエチレン (別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー) | <0.0002 | 0.002 以下 |
| | 1,2-ジクロロエタン | <0.0004 | 0.004 以下 |
| | 1,1-ジクロロエチレン | <0.01 | 0.1 以下 |
| | 1,2-ジクロロエチレン | <0.014 | 0.04 以下 |
| | 1,1,1-トリクロロエタン | <0.10 | 1 以下 |
| | 1,1,2-トリクロロエタン | <0.0006 | 0.006 以下 |
| | トリクロロエチレン | 0.002 | 0.01 以下 |
| | テトラクロロエチレン | 0.018 | 0.01 以下 |
| | 1,3-ジクロロプロペン | <0.0002 | 0.002 以下 |
| | チウラム | <0.0006 | 0.006 以下 |
| | シマジン | <0.0003 | 0.003 以下 |
| | チオベンカルブ | <0.002 | 0.02 以下 |
| | ベンゼン | <0.001 | 0.01 以下 |
| | セレン | <0.001 | 0.01 以下 |
| | 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 23 | 10 以下 |
| | ふっ素 | <0.02 | 0.8 以下 |
| | ほう素 | 0.04 | 1 以下 |
| 1,4-ジオキサン | <0.005 | 0.05 以下 | |

（資料：平成 29 年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果）

網掛けは、環境基準を達成していないものを示す。

※「検出されないこと」とは、水質汚濁防止法規則に定められた検定方法で測定を行い、定量下限値未満のものを指す。

表 3-2-2-5 地下水の継続調査結果

(単位：mg/L)

| 項目 | 測定結果 (年平均値) | | | 環境基準 |
|---------------------------------|-------------|---------|---------|----------|
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | |
| 四塩化炭素 | 0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| クロロエチレン (別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー) | - | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | <0.002 | <0.01 | <0.002 | 0.1 以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 0.081 | - | 0.031 | - |
| トランス-1,2-ジクロロエチレン | - | - | <0.002 | - |
| 1,2-ジクロロエチレン | 0.083 | 0.014 | 0.033 | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 0.021 | <0.10 | 0.012 | 1 以下 |
| トリクロロエチレン | 0.013 | 0.002 | 0.008 | 0.01 以下 |
| テトラクロロエチレン | 0.26 | 0.018 | 0.23 | 0.01 以下 |

(資料：公共用水域及び地下水の水質測定結果)

網掛けは、環境基準を達成していないものを示す。

3) 公共用水域 (河川水質・河川底質) のダイオキシン類

調査範囲及びその周辺の公共用水域 (河川水質・河川底質) のダイオキシン類調査について、関係市が実施している調査結果を表 3-2-2-6 に示す。

調査結果はすべての地点で環境基準を達成している。

表 3-2-2-6 公共用水域 (河川水質) のダイオキシン類

| 市名 | 調査地点 | 項目 | 年平均値 | 環境基準 |
|-----|----------------------|---------------|---------------|----------------|
| 深谷市 | 福川 (八幡免橋付近) | 河川水質 | 0.21pg-TEQ/L | 1 pg-TEQ/L 以下 |
| | 前の川排水路 (上野台 1879 付近) | | 0.42pg-TEQ/L | |
| | 針ヶ谷排水路 (JR 高崎線付近) | | 0.13pg-TEQ/L | |
| | 櫛引排水路 (田中 1425 付近) | | 0.083pg-TEQ/L | |
| | 吉野川 (内田橋付近) | | 0.22pg-TEQ/L | |
| 熊谷市 | 三尻都市下水路 | 0.063pg-TEQ/L | 0.063pg-TEQ/L | 150pg-TEQ/g 以下 |
| | 三尻都市下水路 (二重測定) | 0.063pg-TEQ/L | | |
| 深谷市 | 吉野川 (内田橋付近) | 河川底質 | 0.29pg-TEQ/g | 150pg-TEQ/g 以下 |

(資料：深谷市の環境、熊谷市環境白書)

深谷市は平成 29 年度、熊谷市は令和 2 年度の結果を示す。

3-2-3 土壌及び地盤の状況

1. 土壌

1) 要措置区域及び形質変更時要届出区域の状況

調査範囲及びその周辺における土壌汚染対策法（平成 14 年法律第 53 号）に基づく要措置区域の指定状況を表 3-2-3-1 に、形質変更時要届出区域の指定状況を表 3-2-3-2 に示す。

なお、対象事業実施区域周辺に要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はない。

表 3-2-3-1 要措置区域の指定状況

| 整理番号 | 指定年月日 | 指定番号 | 区域の所在場所 | 区域の面積 (m ²) | 基準に適合しない特定有害物質 |
|---------|------------------|---------|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 整-27-7 | 平成 27 年 7 月 14 日 | 指-101 号 | 深谷市田谷字戸森前 11 番 1 の一部 | 287.0 | 砒素及びその化合物 ふっ素及びその化合物 |
| 整-R3-11 | 令和 4 年 2 月 25 日 | 指-189 号 | 深谷市幡羅町 1 丁目 9 番 2 の一部 | 200 | トリクロロエチレン |

(資料：土壌汚染対策法に基づく区域の指定について (埼玉県ホームページ))

表 3-2-3-2 形質変更時要届出区域の指定状況

| 整理番号 | 指定年月日 | 指定番号 | 区域の所在場所 | 区域の面積 (m ²) | 基準に適合しない特定有害物質 |
|--------|------------------|---------|----------------------|-------------------------|------------------------|
| 整-27-8 | 平成 27 年 7 月 14 日 | 指-102 号 | 深谷市田谷字戸森前 11 番 1 の一部 | 87.0 | 鉛及びその化合物 |
| 整-28-8 | 平成 28 年 8 月 26 日 | 指-122 号 | 深谷市幡羅町一丁目 9 番 2 の一部 | 7,580.73 | 鉛及びその化合物 ふっ素及びその化合物 |

(資料：土壌汚染対策法に基づく区域の指定について (埼玉県ホームページ))

2) ダイオキシン類

埼玉県では、土壌のダイオキシン類の常時監視測定（一般環境把握調査及び発生源周辺状況調査）を行っている。令和元年度は深谷市内の 8 地点で発生源周辺状況調査が行われている。

測定結果は表 3-2-3-3 に示すとおりであり、すべての地点で環境基準を達成している。

表 3-2-3-3 ダイオキシン類発生源周辺状況調査結果 (令和元年度)

(単位：pg-TEQ/g)

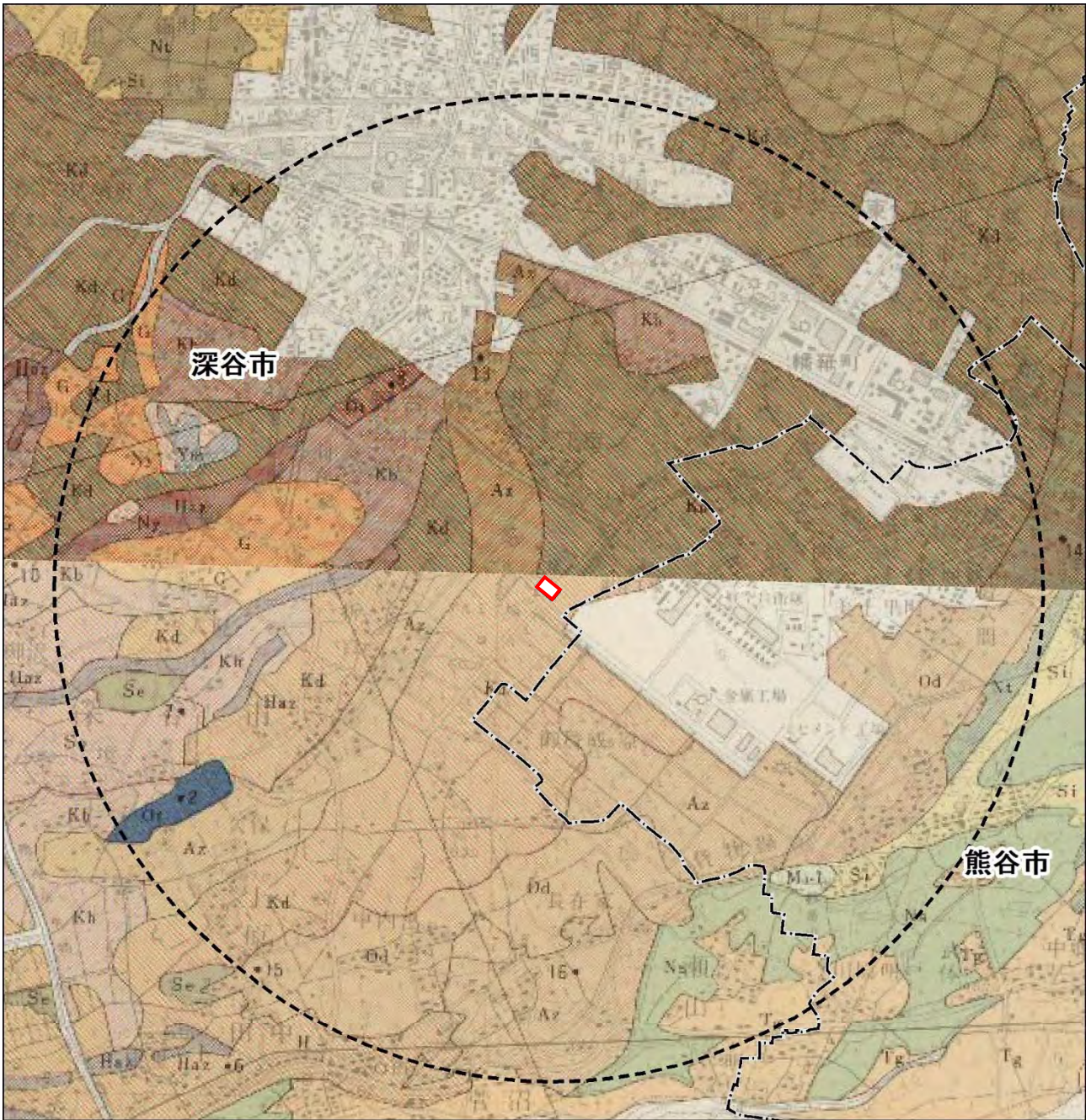
| 調査地点 | | 調査結果 | 環境基準 |
|------|----|------|-------|
| 深谷市 | 人見 | 5.2 | 1,000 |
| | 榎合 | 2.9 | |
| | 人見 | 2.1 | |
| | 酒井 | 0.72 | |
| | 櫛引 | 3.9 | |
| | 柏合 | 8.3 | |
| | 岡部 | 5.1 | |
| | 櫛挽 | 3.5 | |

(資料：土壌常時監視結果 ダイオキシン類 (令和元年度調査結果))

3) 土壌の分布状況

調査範囲及びその周辺の表層土壌の分布状況は、図 3-2-3-1 に示すとおりである。

対象事業実施区域の土壌は、淡色黒ボク土壌である。対象事業実施区域周辺は、主に淡色黒ボク土壌、黒ボク土壌等である。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

| | | | |
|---|-----|--|-------|
| Ni | 仁手統 | Od | 小前田統 |
| Kd | 児玉統 | Tg | 勅使河原統 |
| G | 久城統 | Mi-1 | 三カ山1統 |
| Haz | 榛沢統 | Kh | 上広谷統 |
| Az | 青瀬統 | Sr | 千代統 |
| Sa | 新戒統 | H | 花園統 |
| Ne | 長野統 | | |

1:32,000



資料：「土地分類基本調査 土壌図（熊谷）」（昭和 49 年、埼玉県）
 「土地分類基本調査 土壌図（高崎・深谷）」（昭和 54 年、埼玉県）

図 3-2-3-1 土壌図

2. 地盤沈下の状況

調査範囲及びその周辺における平成29年1月1日から令和4年1月1日までの地盤沈下の調査結果を表3-2-3-4に、調査地点を図3-2-3-2に示すとおりである。

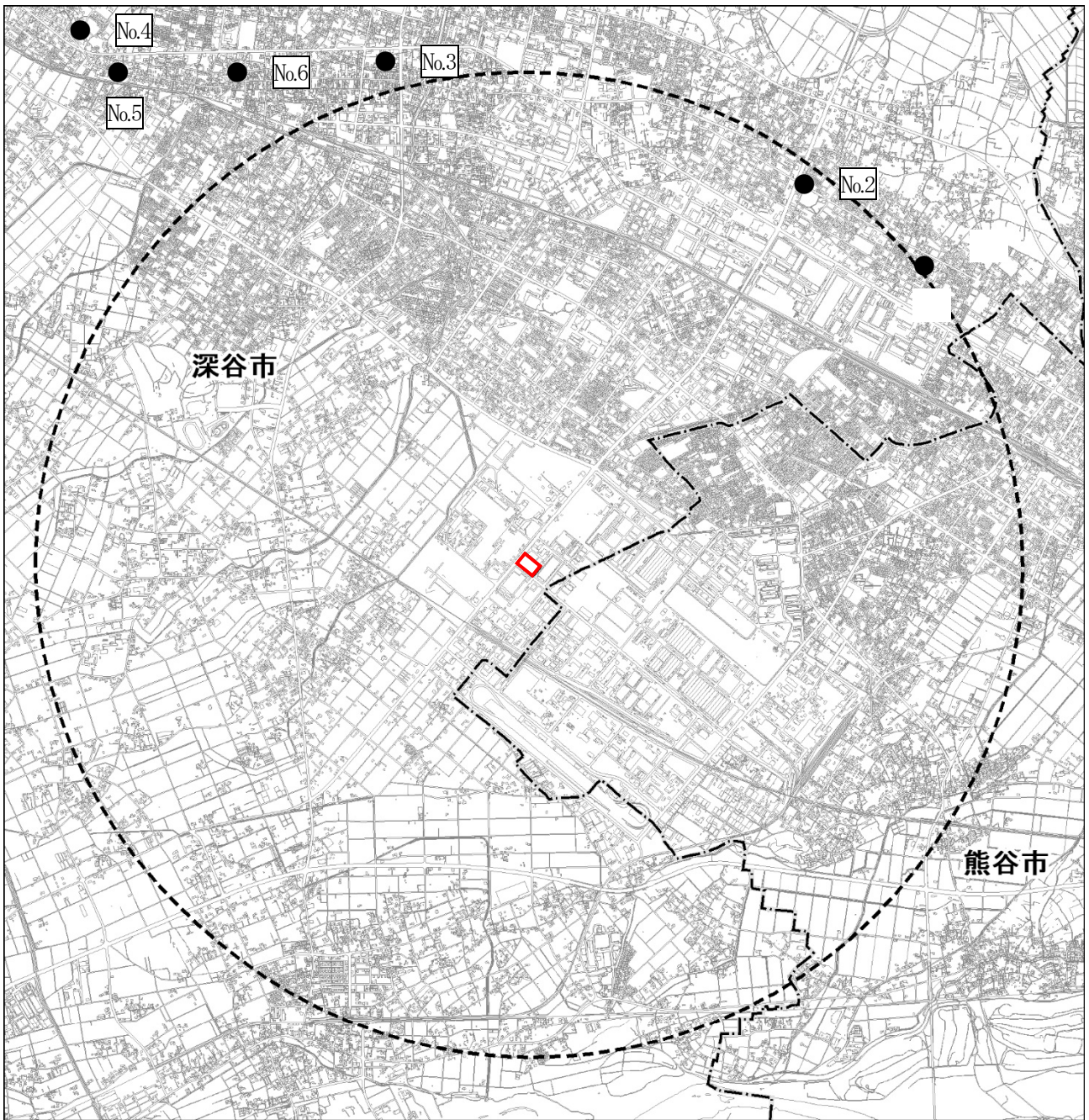
調査範囲及びその周辺における過去5年間の地盤沈下の変動量は-5.6mm～-2.6mmであった。

なお、対象事業実施区域に最も近い調査地点（No.2）の過去5年間の変動量は-5.6mmであった。

表 3-2-3-4 地盤沈下の状況（水準測量結果）

| 市名 | No. | 調査地点 | 調査開始年月日 | 各年別変動量 (mm) | | | | | 過去5年間の変動量 平成29.1.1 令和4.1.1 (mm) | 調査開始年からの 変動量 (mm) |
|-----|-----|------------------------|---------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--|-------------------------|
| | | | | 平成29.1.1 平成30.1.1 | 平成30.1.1 平成31.1.1 | 平成31.1.1 令和2.1.1 | 令和2.1.1 令和3.1.1 | 令和3.1.1 令和4.1.1 | | |
| 深谷市 | 1 | 東方5丁目10 川内公園 | 23.1.1 | -1.9 | -4.5 | +1.5 | -3.1 | +3.6 | -4.4 | -26.5 |
| | 2 | 国済寺町17 三島公園 | 18.1.1 | -1.8 | -4.7 | -0.2 | -2.0 | +3.1 | -5.6 | -32.6 |
| | 3 | 本住町7丁目58地先 足利銀行深谷支店 | 18.1.1 | -0.8 | -3.1 | -1.3 | -0.5 | +2.7 | -3.0 | -18.7 |
| | 4 | 宿根1 瀧宮神社 | 23.1.1 | -1.3 | -1.9 | -1.0 | -2.0 | +3.1 | -3.1 | -23.8 |
| | 5 | 萱場14-1 萱場稻荷神社 | 18.1.1 | -1.1 | -2.8 | +0.8 | -2.5 | +3.0 | -2.6 | -21.3 |
| | 6 | 田所町8-12 田所町会館 | 18.1.1 | -0.9 | -3.6 | -1.2 | -1.3 | +2.6 | -4.4 | -23.1 |

(資料：水準測量成果表 令和3年度)



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

● 調査地点

資料：令和3年度 水準測量成果表

1:32,000

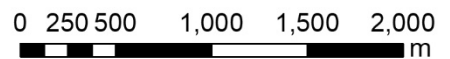


図 3-2-3-2 地盤沈下調査地点図

3-2-4 地形及び地質の状況

1. 地形の状況

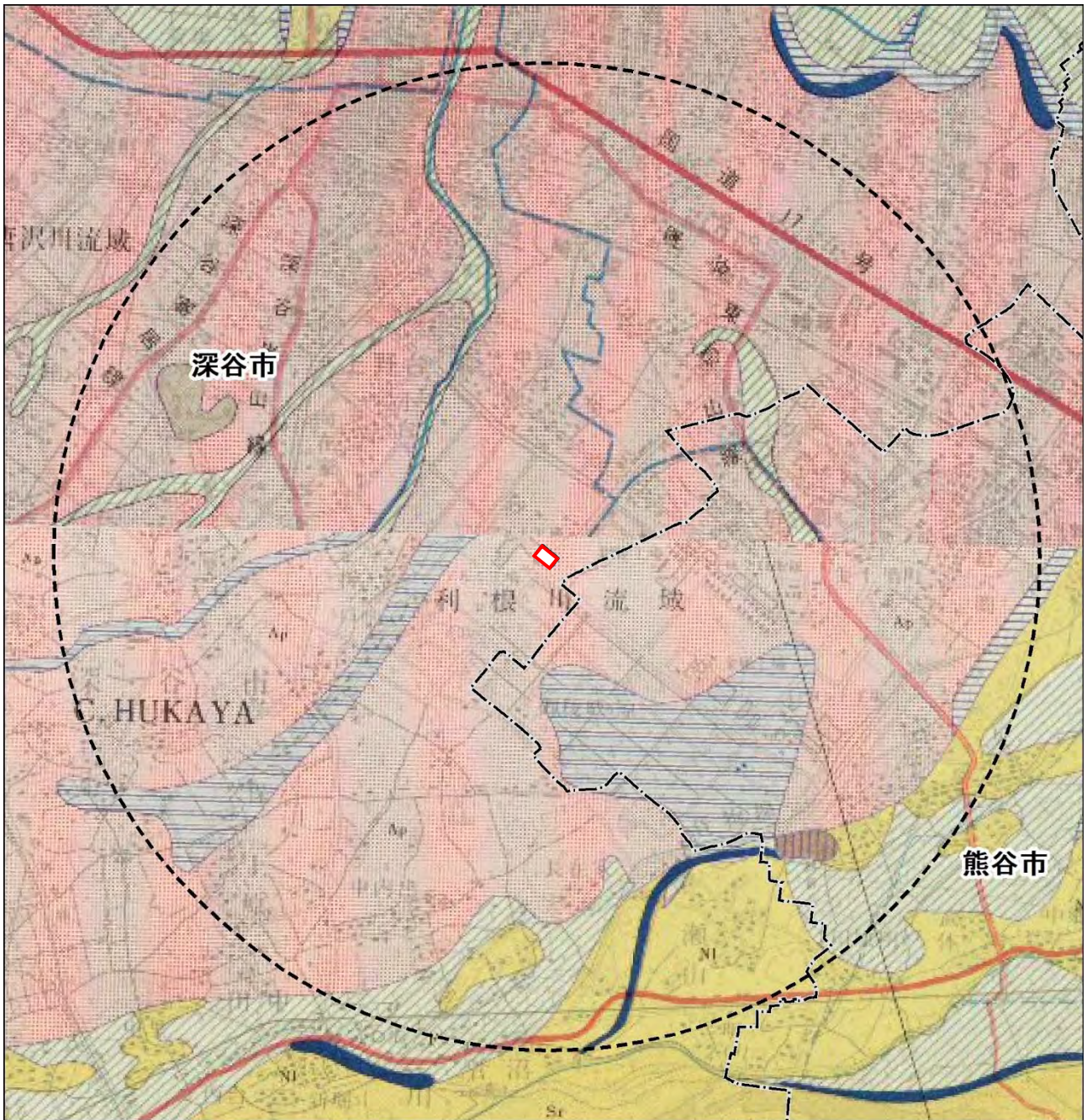
調査範囲及びその周辺の地形分類は、図 3-2-4-1 に示すとおりである。

対象事業実施区域の地形分類は、自然堤防・砂州・砂丘であり、対象事業実施区域周辺も、主に自然堤防・砂州・砂丘となっている。

2. 地質の状況



調査範囲及びその周辺の地形分類は、図 3-2-4-2 に示すとおりである。

対象事業実施区域の地形分類は、ロームであり、対象事業実施区域周辺も、主にロームとなっている。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

- | | | | |
|---|------------|--|-------------|
|  | 火山灰台地 |  | 自然堤防 |
|  | 扇状地 |  | 台地上の谷 (谷地田) |
|  | 丘陵地 |  | 崖 |
|  | 旧流路跡 (旧河道) | | |

1:32,000



資料：「土地分類基本調査 地形分類図（熊谷）」（昭和 49 年、埼玉県）
 「土地分類基本調査 地形分類図（高崎・深谷）」（昭和 54 年、埼玉県）



図 3-2-4-1 地形分類図



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

- Qs 混質礫堆積物
- Tr 凝灰岩
- L ローム
- Qs 砂泥堆積物
- Qa 砂質泥堆積物

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m



資料：「土地分類基本調査 表層地質図（熊谷）」（昭和49年、埼玉県）
 「土地分類基本調査 表層地質図（高崎・深谷）」（昭和54年、埼玉県）

図 3-2-4-2 表層地質図

3-2-5 動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況

1. 動物

表 3-2-5-1 に示す既存文献を収集し、事業実施区域及びその周辺に生息する可能性がある動物について把握した。

表 3-2-5-1 動物相の把握に用いた文献。

| No. | 文献名等 | 整理対象分類群 | | | | | |
|-----|-------------------------------------|---------|----|-----|-----|----|-----|
| | | 哺乳類 | 鳥類 | 爬虫類 | 両生類 | 魚類 | 昆虫類 |
| 1 | 埼玉県レッドデータブック2018 動物編 (埼玉県 2018年) | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 2 | ガンカモ類の生息調査 平成30年度 (環境省 2018年) | | ● | | | | |
| 3 | 第4回 動植物分布調査報告書 (環境省 1993年) | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

1) 動物相及び保全すべき種の状況

既存文献調査の結果、哺乳類はネズミ類、コウモリ類、タヌキ、アカギツネ、イタチ類、イノシシなどが確認され、国の特別天然記念物であるニホンカモシカも確認された。

鳥類はカモ類、サギ類、チドリ類など水辺を利用する種、カッコウ類、タカ類、フクロウ類など樹林地を利用する種、ホオジロ類やヨシキリ類等の草地を利用する種が確認され、国の天然記念物であるマガン、シラコバト、特別天然記念物であるコウノトリも確認された。

両生類は、カスミサンショウウオ、アズマヒキガエル、アカガエル類、トウキョウダルマガエルなどが確認され、特定外来生物であるウシガエルも確認された。

爬虫類は、シマヘビ、アオダイショウ、ニホンイシガメ、ニホンカナヘビが確認された。

魚類は、ニホンウナギやタモロコ、ドジョウなど主に河川や用水路などにみられる種が確認され、特定外来生物であるオオクチバス、ブルーギルも確認された。

昆虫類は、チョウ目が最も多く 58 種、次いでトンボ目が 53 種と、計 172 種の内、この 2 目が半数を占めていた。

また、保全すべき種として、哺乳類 3 種、鳥類 58 種、両生類 5 種、爬虫類 4 種、魚類 18 種、昆虫類 66 種が確認されている。

保全すべき種の選定根拠とした資料は表 3-2-5-2 に、保全すべき種の一覧を表 3-2-5-3(1)～3-2-5-3(7)に示す。

表 3-2-5-2 保全すべき種の選定根拠とした資料（動物）

| No. | 文献及び法令名 | 区分 | 略号 |
|-----|---|---|---|
| ① | 文化財保護法 (昭和 25 年、法律第 214 号) | 特別天然記念物 天然記念物 | 特天 天 |
| ② | 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年、法律第 75 号) | 国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種 特定国内希少野生動植物種 | 国内 国際 特定 |
| ③ | 埼玉県文化財保護条例 (昭和 30 年、埼玉県条例第 46 号) | 県指定天然記念物 | 県天 |
| ④ | 埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例 (平成 12 年、埼玉県条例第 11 号) | 県内希少野生動植物種 | 県希 |
| ⑤ | 環境省レッドリスト 2020 (令和 2 年、環境省) | 絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群 | EX EW CR+EN CR EN VU NT DD LP |
| ⑥ | 埼玉県レッドデータブック 動物編 2018 (第 4 版) (平成 30 年、埼玉県環境部みどり自然課) | 絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 準絶滅危惧 1 型 準絶滅危惧 2 型 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群 地帯別危惧 | EX EW CR+EN CR EN VU NT NT1 NT2 DD LP RT |

表 3-2-5-3(1) 保全すべき種の一覧（哺乳類）

| 目名 | 科名 | 和名 | 文献 | | 選定基準 | | | | | | |
|----|-----------|-----------|----|----|------|----|----|----|----|----|-------|
| | | | 1 | 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| 翼手 | キクガシラコウモリ | キクガシラコウモリ | ○ | | | | | | | | NT1 |
| | ヒナコウモリ | ヤマコウモリ | ○ | ○ | | | | | | | VU VU |
| 偶蹄 | ウシ | ニホンカモシカ | | ○ | 特天 | | | | | | |
| 2目 | 3科 | 3種 | 2種 | 2種 | 1種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 1種 | 2種 |

名称、配列は基本的に「世界哺乳類標準和名リスト」（日本哺乳類学会 2017）に従った。

重要種の選定基準、記号などは以下のとおりである。

①：文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）

特天：特別天然記念物、天然：天然記念物

②：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：希少野生動植物種、特定：特定国内希少野生動植物種

③：埼玉県文化財保護条例（昭和 30 年 条例第 46 号）

④：埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例（平成 12 年 条例第 11 号）

⑤：環境省レッドリスト 2020（令和 2 年 環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑥：埼玉県レッドデータブック 2018（埼玉県 2018 年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、

DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

表 3-2-5-3(2) 保全すべき種の一覧 (鳥類)

| 目名 | 科名 | 和名 | 文献 | | | 選定基準 | | | | | | | |
|--------|----------|---------|------|----|-----|------|----|----|----|-----|-----|----------|------|
| | | | 1 | 2 | 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| キシ | キシ | ヤマトリ | | | ○ | | | | | | | 繁VU・越VU | |
| カモ | カモ | マカ | ○ | | | 天 | | | | NT | | 越CR | |
| | | コハクチョウ | ○ | | ○ | | | | | | | 越NT1 | |
| | | トモエカモ | | | ○ | | | | | VU | | 越VU | |
| カイツブリ | カイツブリ | ミミカイツブリ | | | ○ | | | | | | 越DD | | |
| ハト | ハト | シラコハト | ○ | | ○ | 天* | | | | EN | | 繁EN・越EN | |
| | | アオハト | | | ○ | | | | | | | 繁RT | |
| コウノトリ | コウノトリ | コウノトリ | ○ | | | 特天 | ● | | | CR | | 繁EX | |
| ペリカン | サギ | ヨシコイ | | | ○ | | | | | NT | | 繁VU | |
| | | ササコイ | ○ | | ○ | | | | | | | 繁EN | |
| | | チュウサギ | | | ○ | | | | | NT | | 繁VU | |
| | | コサギ | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| ツル | クイナ | バン | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| | | オオバン | | | ○ | | | | | | | 繁NT1 | |
| カッコウ | カッコウ | ホトトギス | | | ○ | | | | | | | 繁RT | |
| | | ツツドリ | | | ○ | | | | | | | | 繁LP |
| アマツハメ | アマツハメ | ヒメアマツハメ | ○ | | | | | | | | | 繁LP・越VU | |
| チドリ | チドリ | タゲリ | | | ○ | | | | | | | 越NT2 | |
| | | イカルチドリ | | | ○ | | | | | | | 繁NT1 | |
| | | シロチドリ | ○ | | ○ | | | | | VU | | 繁LP | |
| | シギ | タシギ | | | ○ | | | | | | | | 越RT |
| | | イソシギ | | | ○ | | | | | | | | 繁VU |
| | | ハマシギ | | | ○ | | | | | NT | | | |
| | タマシギ | タマシギ | ○ | | | | | | | VU | | 繁CR・越CR | |
| ツバメチドリ | ツバメチドリ | ○ | | | | | | | VU | | 繁CR | | |
| カモメ | コアジサシ | ○ | | ○ | | | | | VU | | 繁CR | | |
| タカ | タカ | トビ | | | ○ | | | | | | | 繁DD | |
| | | ツミ | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| | | ハイタカ | | | ○ | | | | | NT | | 繁DD・越NT2 | |
| | | サシハ | | | ○ | | | | | VU | | 繁CR | |
| フクロウ | フクロウ | オオコノハズク | ○ | | | | | | | | | 繁DD・越DD | |
| | | フクロウ | ○ | | ○ | | | | | | | 繁RT・越NT2 | |
| | | アオハズク | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| フッホウソウ | カワセミ | カワセミ | | | ○ | | | | | | | 繁RT | |
| | | ヤマセミ | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| キツツキ | キツツキ | アオケラ | | | ○ | | | | | | 繁RT | | |
| ハヤブサ | ハヤブサ | チョウゲンホウ | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| スズメ | サンショウクイ | サンショウクイ | ○ | | | | | | | VU | | 繁EN | |
| | | カササギヒタキ | | | ○ | | | | | | | 繁EN | |
| | | シジュウカラ | コカラ | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 |
| | | | ヤマカラ | | | ○ | | | | | | | 繁RT |
| | ウグイス | ヒカラ | | | ○ | | | | | | | 繁RT | |
| | | ウグイス | | | ○ | | | | | | | 繁RT | |
| | ムシクイ | ヤブサメ | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| | センダイムシクイ | | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| | オオヨシキリ | | | | ○ | | | | | | | 繁NT2 | |
| | ヒタキ | トラツグミ | | | ○ | | | | | | | | 繁NT2 |
| | | クロツグミ | | | ○ | | | | | | | | 繁NT2 |
| | | コルリ | | | ○ | | | | | | | | 繁NT1 |
| | | ルリビタキ | | | ○ | | | | | | | | 越RT |
| | | コサメビタキ | ○ | | | | | | | | | | 繁EN |
| | | キビタキ | | | ○ | | | | | | | | 繁RT |
| | | オオルリ | | | ○ | | | | | | | | 繁RT |
| アトリ | | ヘニマシコ | | | ○ | | | | | | | 越RT | |
| ホオジロ | ホオジロ | | | ○ | | | | | | | | 繁RT | |
| | ミヤマホオジロ | | | ○ | | | | | | | | 越NT1 | |
| | アオジ | | | ○ | | | | | | | | 繁DD | |
| | クロジ | | | ○ | | | | | | | | 越RT | |
| 16目 | 28科 | 58種 | 14種 | 0種 | 50種 | 3種 | 1種 | 0種 | 0種 | 14種 | 57種 | | |

名称、配列は基本的に「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥類学会 2014)に従った。

重要種の選定基準、記号などは以下のとおりである。

①：文化財保護法(昭和25年 法律第214号)

特天：特別天然記念物、天然：天然記念物

②：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：希少野生動植物種、特定：特定国内希少野生動植物種

③：埼玉県文化財保護条例(昭和30年 条例第46号)

④：埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例(平成12年 条例第11号)

⑤：環境省レッドリスト2020(令和2年 環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑥：埼玉県レッドデータブック2018(埼玉県 2018年)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、

DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

その他

*：越ヶ谷のシラコバト

繁：繁殖鳥、越：越冬鳥

表 3-2-5-3(3) 保全すべき種の一覧(両生類)

| 目名 | 科名 | 和名 | 文献 | | 選定基準 | | | | | | | |
|---------|----------------|-------------|----|----|------|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | | 1 | 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| サンショウウオ | サンショウウオ | カスミサンショウウオ | | ○ | | | | | | | VU | |
| カエル | ヒキガエル アカガエル | アスマヒキガエル | | ○ | | | | | | | | NT1 |
| | | ニホンアカガエル | | ○ | | | | | | | | VU |
| | | ヤマアカガエル | | ○ | | | | | | | | NT2 |
| | | トウキョウダルマガエル | ○ | ○ | | | | | | | | NT |
| 2目 | 3科 | 5種 | 1種 | 5種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 2種 | 4種 | |

表 3-2-5-3(4) 保全すべき種の一覧(爬虫類)

| 目名 | 科名 | 和名 | 文献 | | 選定基準 | | | | | | | |
|-----|--------------|---------|----|----|------|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | | 1 | 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| カメ | イシガメ | ニホンイシガメ | | ○ | | | | | | | NT | DD |
| トカゲ | カナヘビ ナミヘビ | ニホンカナヘビ | | ○ | | | | | | | | RT |
| | | アオダマシヨウ | | ○ | | | | | | | | NT2 |
| | | シマヘビ | | ○ | | | | | | | | VU |
| 2目 | 3科 | 4種 | 0種 | 4種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 1種 | 4種 | |

名称、配列は基本的に「日本産爬虫調整類標準和名リスト(2020年3月16日版)」(日本爬虫両棲類学会 2020年)に従った。

重要種の選定基準、記号などは以下のとおりである。

①：文化財保護法(昭和25年 法律第214号)

特天：特別天然記念物、天然：天然記念物

②：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：希少野生動植物種、特定：特定国内希少野生動植物種

③：埼玉県文化財保護条例(昭和30年 条例第46号)

④：埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例(平成12年 条例第11号)

⑤：環境省レッドリスト2020(令和2年 環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑥：埼玉県レッドデータブック2018(埼玉県 2018年)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、

DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

表 3-2-5-3(5) 保全すべき種の一覧 (魚類)

| 目名 | 科名 | 和名 | 文献 | | 選定基準 | | | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|----|-----|------|----|----|----|-----|----|-----|
| | | | 1 | 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| ヤツメウナギ ^ㇿ | ヤツメウナギ ^ㇿ | スヤツメ北方種 | | ○ | | | | | | VU | CR |
| ウナギ ^ㇿ | ウナギ ^ㇿ | ニホンウナギ ^ㇿ | | ○ | | | | | | EN | NT2 |
| コイ | コイ | ツチフキ | | ○ | | | | | | EN | |
| | | キンブナ | | ○ | | | | | | VU | VU |
| | | ゲンゴロウブナ | | ○ | | | | | | EN | |
| | | ワタカ | | ○ | | | | | | CR | |
| | | ハス | | ○ | | | | | | VU | |
| | | スコモロコ | | ○ | | | | | | VU | |
| | | ヤリタナゴ | | ○ | | | | | | NT | CR |
| | | トシヨウ | | ○ | | | | | | NT | |
| フクトシヨウ | | ○ | | | | | | EN | CR | | |
| ナマス ^ㇿ | キギ ^ㇿ | キハチ | | ○ | | | | | VU | | |
| サケ | キュウリウオ | ワカサギ ^ㇿ | | ○ | | | | | | | NT1 |
| | サケ | ヤマメ | | ○ | | | | | | NT | VU |
| トゲウオ | トゲウオ | ムサシトミヨ | ○ | ○ | | | | ● | | CR | CR |
| タツ | メダカ | ミナミメダカ | | ○ | | | | | | VU | NT2 |
| カサゴ | カシカ | カシカ | | ○ | | | | | | NT | |
| スズキ | ハセ | ジュスカケハセ | | ○ | | | | | | NT | |
| 9目 | 12科 | 18種 | 1種 | 18種 | 0種 | 0種 | 1種 | 0種 | 17種 | 9種 | |

名称、配列は基本的に「日本産魚類全種リスト」(鹿児島大学総合研究博物館 2020年)に従った。
重要種の選定基準、記号などは以下のとおりである。

①: 文化財保護法(昭和25年 法律第214号)

特天: 特別天然記念物、天然: 天然記念物

②: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年 法律第75号)

国内: 国内希少野生動植物種、国際: 希少野生動植物種、特定: 特定国内希少野生動植物種

③: 埼玉県文化財保護条例(昭和30年 条例第46号)

④: 埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例(平成12年 条例第11号)

⑤: 環境省レッドリスト2020(令和2年 環境省)

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧I類、CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類

VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

⑥: 埼玉県レッドデータブック2018(埼玉県 2018年)

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧I類、CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類

VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧、NT1: 準絶滅危惧1型、NT2: 準絶滅危惧2型、

DD: 情報不足、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、RT: 地帯別危惧

表 3-2-5-3(6) 保全すべき種の一覧（昆虫類）(1)

| 目名 | 科名 | 和名 | 文献 | | 選定基準 | | | | | | | |
|-----------------------|---|---|--------------------------|---|------|---|---|---|---|-------|--------|--------|
| | | | 1 | 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| トンボ | イトトンボ | ムスシ ^レ イトトンボ | | ○ | | | | | | | DD | |
| | | キイトトンボ | | ○ | | | | | | | NT2 | |
| | | モートンイトトンボ | | ○ | | | | | | | NT EN | |
| | モノサシトンボ | オオモノサシトンボ | | ○ | | | | | | | EN EN | |
| | ムカシヤンマ | ムカシヤンマ | | ○ | | | | | | | | VU |
| | | サナエトンボ | ヤマサナエ | | ○ | | | | | | | NT2 |
| | | | アオサナエ | | ○ | | | | | | | |
| | ヒメサナエ | | | ○ | | | | | | | | NT1 |
| | ヤンマ | ルリホ ^レ シヤンマ | | ○ | | | | | | | | NT1 |
| | | オオルリホ ^レ シヤンマ | | ○ | | | | | | | | VU |
| | | アオヤンマ | | ○ | | | | | | | | NT VU |
| | | コシホ ^レ ソヤンマ | | ○ | | | | | | | | NT1 |
| | | サラサヤンマ | | ○ | | | | | | | | NT2 |
| | トンボ | ヨツホ ^レ シトンボ | | ○ | | | | | | | | VU |
| | | ハラヒ ^レ ロトンボ | | ○ | | | | | | | | NT2 |
| ハッチョウトンボ | | ○ | ○ | | | | | | | | EX | |
| ヒメアカネ | | | ○ | | | | | | | | VU | |
| オオキトンボ | | | ○ | | | | | | | | EN CR | |
| カマキリ | カマキリ | ウスハ ^レ カマキリ | ○ | | | | | | | DD EN | | |
| ハ ^レ ツタ | コオロギ | エゾ ^レ エンマコオロギ | ○ | | | | | | | | EN | |
| | キリキリス | カヤキリ | ○ | | | | | | | | EN | |
| ハサミムシ | クキ ^レ ヌキハサミムシ | キハ ^レ ネハサミムシ | ○ | | | | | | | | DD | |
| カメムシ | セミ | ハルセ ^レ ミ | | ○ | | | | | | | NT1 | |
| | アメンボ | ハ ^レ ハ ^レ アメンボ | | ○ | | | | | | | NT NT1 | |
| | | オオアメンボ | | ○ | | | | | | | | NT2 |
| | コオイムシ | タカ ^レ メ | ○ | | | | | | | | VU CR | |
| | コハ ^レ ンムシ | コハ ^レ ンムシ | | ○ | | | | | | | EN CR | |
| | ツチカメムシ | シロヘリツチカメムシ | ○ | | | | | | | | NT NT2 | |
| キンカメムシ | チャイロカメムシ | ○ | | | | | | | | NT2 | | |
| アミメカゲ ^レ ロウ | ツノトンボ | キハ ^レ ネツノトンボ | ○ | | | | | | | | CR | |
| コウチュウ | ハンミョウ | ホソハンミョウ | ○ | | | | | | | | VU NT1 | |
| | | オサムシ | チョウセンコ ^レ モクムシ | ○ | | | | | | | VU VU | |
| | ケ ^レ ンコ ^レ ロウ | オオヒラタトクリコ ^レ ミムシ | ○ | | | | | | | | CR EX | |
| | | クロモンヒラナカ ^レ コ ^レ ミムシ | ○ | | | | | | | | VU | |
| | | イク ^レ チケフ ^レ カコ ^レ ミムシ | ○ | | | | | | | | NT NT1 | |
| | ケ ^レ ンコ ^レ ロウ | コ ^レ マタ ^レ ラチヒ ^レ ケ ^レ ンコ ^レ ロウ | ○ | | | | | | | | | NT1 |
| | | キハ ^レ リマメケ ^レ ンコ ^レ ロウ | | ○ | | | | | | | | NT |
| | | オオイチモンシ ^レ シマケ ^レ ンコ ^レ ロウ | ○ | | | | | | | | | EN VU |
| | シテ ^レ ムシ | ヤマトモンシテ ^レ ムシ | ○ | | | | | | | | | NT NT1 |
| | | カントウコチヒ ^レ シテ ^レ ムシ | ○ | | | | | | | | | NT1 |
| | ハネカクシ | タカオアハ ^レ タコハ ^レ ネハネカクシ | ○ | | | | | | | | | NT1 |
| | クワカ ^レ タムシ | ネフ ^レ トクワカ ^レ タ | ○ | | | | | | | | | VU |
| | コカ ^レ ネムシ | オオキイロコカ ^レ ネ | ○ | | | | | | | | | NT1 |
| | ヒラタ ^レ ロムシ | マスタ ^レ チヒ ^レ ヒラタ ^レ ロムシ | ○ | | | | | | | | | NT1 |
| | テントウムシ | アイヌテントウ | ○ | | | | | | | | | NT1 |
| カミキリムシ | ヒメヒ ^レ ロウト ^レ カミキリ | ○ | | | | | | | | | NT NT1 | |
| | シロスシ ^レ カミキリ | ○ | | | | | | | | | NT2 | |
| ハチ | ツチハ ^レ チ | オオハラナカ ^レ ツチハ ^レ チ | ○ | | | | | | | | NT2 | |
| | アハ ^レ チ | ムネアカツヤアハ ^レ チ | ○ | | | | | | | | NT1 | |
| シリアケ ^レ ムシ | カ ^レ カンホ ^レ モト ^レ キ | ヤマトカ ^レ カンホ ^レ モト ^レ キ | ○ | | | | | | | | VU | |
| ハエ | ツリアフ ^レ | タイワンハラホ ^レ ツリアフ ^レ | ○ | | | | | | | | NT2 | |
| | ハナアフ ^レ | スス ^レ キハ ^レ ツコウハナアフ ^レ | ○ | | | | | | | | NT2 | |
| | | ハチモト ^レ キハナアフ ^レ | ○ | | | | | | | | NT2 | |

表 3-2-5-3(7) 保全すべき種の一覧（昆虫類）(2)

| 目名 | 科名 | 和名 | 文献 | | 選定基準 | | | | | | | |
|-----|---------|-----------|-----|-----|------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| | | | 1 | 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| チョウ | セリチョウ | ミヤマセリ | | ○ | | | | | | | NT1 | |
| | | ギンイチモンジセリ | | ○ | | | | | | | NT | NT2 |
| | | オオチャハネセリ | | ○ | | | | | | | | NT2 |
| | シジミチョウ | ミスイロオカシジミ | | | ○ | | | | | | | |
| | | ウラコマダラシジミ | | | ○ | | | | | | | VU |
| | | コツハメ | | | ○ | | | | | | | NT2 |
| | | ミヤマシジミ | ○ | ○ | | | | | | | EN | CR |
| | タテハチョウ | ミドリシジミ | | | ○ | | | | | | | NT1 |
| | | メスクロヒョウモン | | | ○ | | | | | | | NT2 |
| | シヤノメチョウ | アサマイチモンジ | | | ○ | | | | | | | NT2 |
| | | シヤノメチョウ | | | ○ | | | | | | | NT2 |
| | ヤカ | コシロシタハ | | | ○ | | | | | | | NT |
| | マダラカ | ヤホシホソマダラ | | | ○ | | | | | | | NT |
| 11目 | 38科 | 66種 | 33種 | 35種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 21種 | 63種 | | |

名称、配列は基本的に「日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-(無脊椎動物編Ⅱ)」(環境省 平成7年)に従った。

重要種の選定基準、記号などは以下のとおりである。

①：文化財保護法（昭和25年 法律第214号）

特天：特別天然記念物、天然：天然記念物

②：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年 法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：希少野生動植物種、特定：特定国内希少野生動植物種

③：埼玉県文化財保護条例（昭和30年 条例第46号）

④：埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例（平成12年 条例第11号）

⑤：環境省レッドリスト2020（令和2年 環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑥：埼玉県レッドデータブック2018（埼玉県 2018年）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、

DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

2. 植物

表 3-2-5-4 に示す既存文献を収集し、事業実施区域及びその周辺に生息する可能性がある植物について把握した。

表 3-2-5-4 植物相の把握に用いた文献

| No. | 文献名等 |
|-----|---|
| 1 | 埼玉県レッドデータブック2011 植物編 (埼玉県 2011年) |
| 2 | 埼玉県レッドデータブック2011 植物編 外来植物分布図 (埼玉県 2011年) |

1) 植物相及び保全すべき種の状況

既存文献調査の結果、主に外来植物からなる 224 種が確認された。また、保全すべき種として、7 種が確認された。

保全すべき種の選定根拠とした資料を表 3-2-5-5 に、保全すべき種の一覧を表 3-2-5-6 に示す。

表 3-2-5-5 保全すべき種の選定根拠とした資料

| No. | 文献及び法令名 | 区分 | 略号 |
|-----|---|---|---|
| ① | 文化財保護法 (昭和 25 年、法律第 214 号) | 特別天然記念物 天然記念物 | 特天 天 |
| ② | 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年、法律第 75 号) | 国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種 特定国内希少野生動植物種 | 国内 国際 特定 |
| ③ | 埼玉県文化財保護条例 (昭和 30 年、埼玉県条例第 46 号) | 県指定天然記念物 | 県天 |
| ④ | 埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例 (平成 12 年、埼玉県条例第 11 号) | 県内希少野生動植物種 | 県希 |
| ⑤ | 環境省レッドリスト 2020 (令和 2 年、環境省) | 絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群 | EX EW CR+EN CR EN VU NT DD LP |
| ⑥ | 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編 (平成 23 年、埼玉県環境部みどり自然課) | 絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群 地帯別危惧 | EX EW CR+EN CR EN VU NT DD LP RT |

表 3-2-5-6 保全すべき種の一覧

| 科名 | 和名 | 文献 | | 選定基準 | | | | | | |
|--------|----------|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| | | 1 | 2 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| トチカガミ | イトトリゲモ | ○ | | | | | | | NT | DD |
| ラン | カキラン | ○ | | | | | | | | EX |
| | ヤマトキシウ | ○ | | | | | | | | EX |
| カヤツリグサ | ヤチカラスノスゲ | ○ | | | | | | | | EX |
| ハラ | カラサイコ | ○ | | | | | | | | VU |
| シンチョウゲ | コカシビ | ○ | | | | | | | | EX |
| キク | サワシロキク | ○ | | | | | | | | DD |
| 6科 | 7種 | 7種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 1種 | 7種 | |

名称、配列は基本的に「改訂新版 日本の野生植物 1～5」(平凡社 平成 27 年)及び「神奈川県植物誌 2018」(神奈川県植物誌調査会 平成 30 年)に従った。

重要種の選定基準、記号などは以下のとおりである。

①：文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特天：特別天然記念物、天然：天然記念物

②：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年 法律第 75 号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：希少野生動植物種、特定：特定国内希少野生動植物種

③：埼玉県文化財保護条例(昭和 30 年 条例第 46 号)

④：埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例(平成 12 年 条例第 11 号)

⑤：環境省レッドリスト 2020(令和 2 年 環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑥：埼玉県レッドデータブック 2011(埼玉県 2011 年)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、

DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

2) 巨樹・巨木

「巨樹・巨木林データベース」(環境省ホームページ)による、深谷市、熊谷市の巨樹・巨木林の一覧を表3-2-5-7(1)~3-2-5-7(4)に、「自然環境保全基礎調査(第4回・第6回 巨樹・巨木林調査)」(環境省ホームページ)による分布状況を図3-2-5-1に示す。

「巨樹・巨木林データベース」(環境省ホームページ)では、調査範囲及びその周辺にケヤキ、カヤ、イチイガシなど6地点8本の巨樹・巨木が確認された。「自然環境保全基礎調査(第4回・第6回 巨樹・巨木林調査)」では調査範囲内に6地点の巨樹・巨木林が確認された。

表3-2-5-7(1) 巨樹・巨木林の一覧(1)

| 所在地 | 樹種 | 幹周 (cm) | 樹高 (m) |
|-----------|-------|---------|--------|
| 深谷市横瀬 | 華蔵寺 | エノキ | 450 31 |
| 深谷市横瀬 | 横瀬神社 | ケヤキ | 330 25 |
| 深谷市下手計 | 八基小学校 | クスノキ | 450 23 |
| 深谷市下手計 | 鹿島神社 | ケヤキ | 340 33 |
| 深谷市下手計 | 鹿島神社 | ケヤキ | 305 28 |
| 深谷市下手計 | 鹿島神社 | ケヤキ | 350 28 |
| 深谷市下手計 | 鹿島神社 | エノキ | 310 22 |
| 深谷市中瀬 | 吉祥寺 | イチョウ | 530 30 |
| 深谷市中瀬 | 吉祥寺 | ケヤキ | 380 29 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 370 29 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 305 26 |
| 深谷市高島 | 諏訪神社 | カヤ | 470 21 |
| 深谷市高島 | 正伝院 | クスノキ | 305 22 |
| 深谷市 | | カヤ | 337 25 |
| 深谷市新戒 | 古榎神社 | イチョウ | 402 28 |
| 深谷市新戒 | 古榎神社 | イチョウ | 405 29 |
| 深谷市沼尻 | 熊野神社 | イチョウ | 410 27 |
| 深谷市上増田 | 諏訪山神社 | ケヤキ | 324 20 |
| 深谷市東方 | 全久院 | カヤ | 420 18 |
| 深谷市東方 | 熊野神社 | ケヤキ | 342 24 |
| 深谷市原郷 | 楡山神社 | ハルニレ | 360 13 |
| 深谷市稲荷町北 | 瑠璃光寺 | ケヤキ | 385 35 |
| 深谷市稲荷町北 | 薬師堂 | イチョウ | 372 30 |
| 深谷市東大沼 | 西蔵寺 | カヤ | 356 23 |
| 深谷市稲荷町3丁目 | 稲荷神社 | ケヤキ | 405 32 |
| 深谷市稲荷町3丁目 | 稲荷神社 | ケヤキ | 330 21 |
| 深谷市稲荷町3丁目 | 稲荷神社 | エノキ | 320 25 |
| 深谷市宿根 | 滝ノ宮神社 | ケヤキ | 325 21 |
| 深谷市宿根 | 滝ノ宮神社 | ケヤキ | 398 18 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 357 25 |
| 深谷市原郷 | 中山道並木 | ケヤキ | 398 16 |
| 深谷市原郷 | 中山道並木 | ケヤキ | 345 23 |
| 深谷市原郷 | 中山道並木 | ケヤキ | 364 20 |

(資料：巨樹・巨木林データベース (環境省ホームページ))

表 3-2-5-7(2) 巨樹・巨木林の一覧(2)

| 所在地 | 樹種 | 幹周 (cm) | 樹高 (m) | |
|-------|-------|---------|--------|----|
| 深谷市西島 | 滝ノ宮神社 | ケヤキ | 313 | 32 |
| 深谷市西島 | 滝ノ宮神社 | ケヤキ | 348 | 29 |
| 深谷市岡部 | | クスノキ | 411 | 25 |
| 深谷市岡部 | | クスノキ | 335 | 24 |
| 深谷市 | 普濟寺 | カヤ | 440 | 22 |
| 深谷市 | 普濟寺 | カヤ | 410 | 22 |
| 深谷市岡下 | | クスノキ | 320 | 24 |
| 深谷市岡上 | | ケヤキ | 500 | 18 |
| 深谷市 | | ムクノキ | 425 | 25 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 330 | 24 |
| 深谷市当後 | | ムクノキ | 520 | 11 |
| 深谷市西田 | | ムクノキ | 330 | 7 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 300 | 20 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 320 | 28 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 330 | 28 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 400 | 28 |
| 深谷市榛沢 | | ケヤキ | 325 | 19 |
| 深谷市本郷 | | ケヤキ | 320 | 18 |
| 深谷市本郷 | | ケヤキ | 310 | 25 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 305 | 21 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 350 | 30 |
| 深谷市上原 | | イチヨウ | 390 | 30 |
| 深谷市 | | ムクノキ | 450 | 25 |
| 深谷市菅沼 | | エノキ | 310 | 12 |
| 深谷市菅沼 | | エノキ | 370 | 15 |
| 深谷市菅沼 | | エノキ | 410 | 20 |
| 深谷市菅沼 | | エノキ | 470 | 18 |
| 深谷市菅沼 | | イチヨウ | 340 | 25 |
| 深谷市瀬山 | | ケヤキ | 340 | 25 |
| 深谷市瀬山 | | ケヤキ | 360 | 20 |
| 深谷市 | | ケヤキ | 340 | |
| 深谷市 | | ケヤキ | 350 | |
| 深谷市 | | ケヤキ | 300 | |
| 深谷市本田 | | エノキ | 360 | |
| 深谷市本田 | | エノキ | 340 | |
| 深谷市本田 | | エノキ | 300 | |
| 深谷市本田 | | ケヤキ | 306 | |
| 深谷市 | | ケヤキ | 400 | |

(資料：巨樹・巨木林データベース (環境省ホームページ))

表 3-2-5-7(3) 巨樹・巨木林の一覧(3)

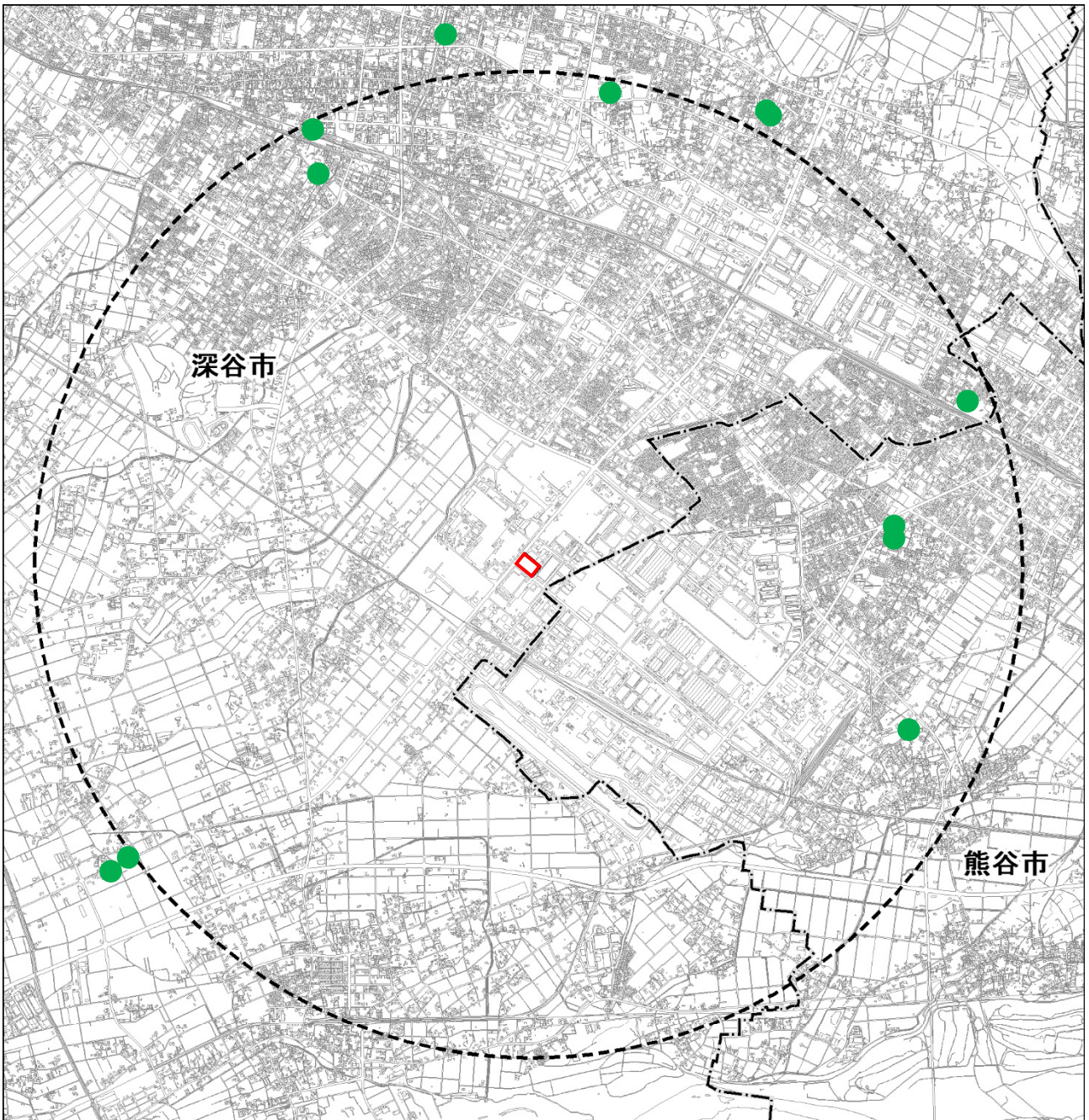
| 所在地 | | 樹種 | 幹周 (cm) | 樹高 (m) |
|----------|------------|-------------------------------------|---------|--------|
| 熊谷市上之 | 上之神社 | ケヤキ | 316 | 20 |
| 熊谷市末広 | | シノキ | 453 | 30 |
| 熊谷市末広 | 県立熊谷女子高等学校 | クスノキ | 350 | 19 |
| 熊谷市 | | クスノキ | 380 | 18 |
| 熊谷市宮町 | 高城神社 | ケヤキ | 620 | 11 |
| 熊谷市宮町 | 高城神社 | イチョウ | 328 | 15 |
| 熊谷市宮町 | 高城神社 | ムクノキ | 360 | 23 |
| 熊谷市宮町 | 高城神社 | ケヤキ | 420 | 26 |
| 熊谷市宮町 | 高城神社 | ムクノキ | 355 | 25 |
| 熊谷市宮町 | 高城神社 | ケヤキ | 459 | 28 |
| 熊谷市本町 | 千形神社 | イチョウ | 332 | 20 |
| 熊谷市本町 | 千形神社 | ケヤキ | 415 | 19 |
| 熊谷市本町 | 千形神社 | ケヤキ | 380 | 23 |
| 熊谷市本町 | 千形神社 | ケヤキ | 390 | 15 |
| 熊谷市石原 | 赤城久伊豆神社 | クスノキ | 360 | 22 |
| 熊谷市新島 | | ケヤキ | 400 | 20 |
| 熊谷市広瀬 | 浅間神社 | ケヤキ | 380 | 23 |
| 熊谷市大麻生 | 大栄神社 | ケヤキ | 526 | 25 |
| 熊谷市大麻生 | 大栄神社 | ケヤキ | 404 | 17 |
| 熊谷市 | | イヌザクラ | 418 | 15 |
| 熊谷市拾六間 | 徳蔵寺 | カヤ | 400 | 23 |
| 熊谷市代 | 八幡神社 | イチョウ | 640 | 20 |
| 熊谷市 | | クスノキ | 345 | 20 |
| 熊谷市中奈良 | 国性寺 | カヤ | 380 | 26 |
| 熊谷市 | | ケヤキ | 333 | 20 |
| 熊谷市 | | ケヤキ | 540 | 25 |
| 熊谷市玉井 | 玉井神社 | イチョウ | 368 | 25 |
| 熊谷市 | | ケヤキ | 308 | 20 |
| 熊谷市 | | ケヤキ | 320 | 20 |
| 熊谷市西別府 | 湯殿神社 | ケヤキ | 639 | 25 |
| 熊谷市末広2丁目 | 県立熊谷女子高等学校 | モミジ ^ハ ス ^カ ケノキ | 480 | 30 |
| 熊谷市末広2丁目 | 県立熊谷女子高等学校 | クスノキ | 490 | 15 |
| 熊谷市末広2丁目 | 県立熊谷女子高等学校 | クスノキ | 655 | 15 |
| 熊谷市石原 | 赤城久伊豆神社 | クスノキ | 360 | 15 |
| 熊谷市広瀬 | 浅間神社 | ケヤキ | 300 | 17 |
| 熊谷市大麻生 | 大栄神社 | ケヤキ | 310 | 25 |
| 熊谷市広瀬 | | ケヤキ | 320 | 15 |
| 熊谷市 | | ケヤキ | 335 | 20 |
| 熊谷市拾六間 | 徳蔵寺 | イイガシ | 310 | 26 |
| 熊谷市西別府 | 湯殿神社 | イチョウ | 314 | 18 |
| 熊谷市 | | クスノキ | 345 | 18 |
| 熊谷市野原 | | スキ ^ヅ | 387 | 12 |
| 熊谷市板井 | | ケヤキ | 400 | 20 |
| 熊谷市 | | エノキ | 430 | 7 |
| 熊谷市 | | ケヤキ | 330 | 20 |
| 熊谷市 | | ケヤキ | 315 | 20 |

(資料：巨樹・巨木林データベース (環境省ホームページ))

表 3-2-5-7(4) 巨樹・巨木林の一覧(4)

| 所在地 | | 樹種 | 幹周 (cm) | 樹高 (m) |
|--------|-----------|--------|---------|--------|
| 熊谷市間々田 | 間々田稲荷神社 | ケヤキ | 365 | 18 |
| 熊谷市間々田 | 間々田稲荷神社 | ケヤキ | 410 | 17 |
| 熊谷市妻沼 | 妻沼小学校 | ケヤキ | 500 | 13 |
| 熊谷市妻沼 | 妻沼聖天山 | カヤ | 315 | 12 |
| 熊谷市妻沼 | 妻沼聖天山 | ケヤキ | 330 | 18 |
| 熊谷市妻沼 | 妻沼聖天山 | ケヤキ | 450 | 20 |
| 熊谷市妻沼 | 妻沼聖天山 | イチョウ | 330 | 12 |
| 熊谷市妻沼 | 妻沼聖天山 | イタヤカエデ | 300 | 10 |
| 熊谷市妻沼 | 妻沼聖天山 | スギ | 400 | 18 |
| 熊谷市妻沼 | | スギ | 345 | 10 |
| 熊谷市弥藤吾 | | ケヤキ | 535 | 20 |
| 熊谷市八ツ口 | 長昌寺 | スダジイ | 380 | 9 |
| 熊谷市西城 | 長慶寺 | イチョウ | 470 | 22 |
| 熊谷市上須戸 | | イチョウ | 340 | 12 |
| 熊谷市妻沼 | 熊谷市立妻沼小学校 | ケヤキ | 529 | 13 |

(資料：巨樹・巨木林データベース (環境省ホームページ))



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界
- 巨樹・巨木分布地点

1:32,000



資料：自然環境保全基礎調査（第4回・第6回巨樹・巨木林調査）
（環境省ホームページ）

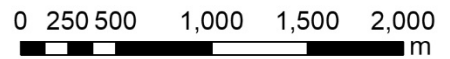


図 3-2-5-1 巨樹・巨木林の状況

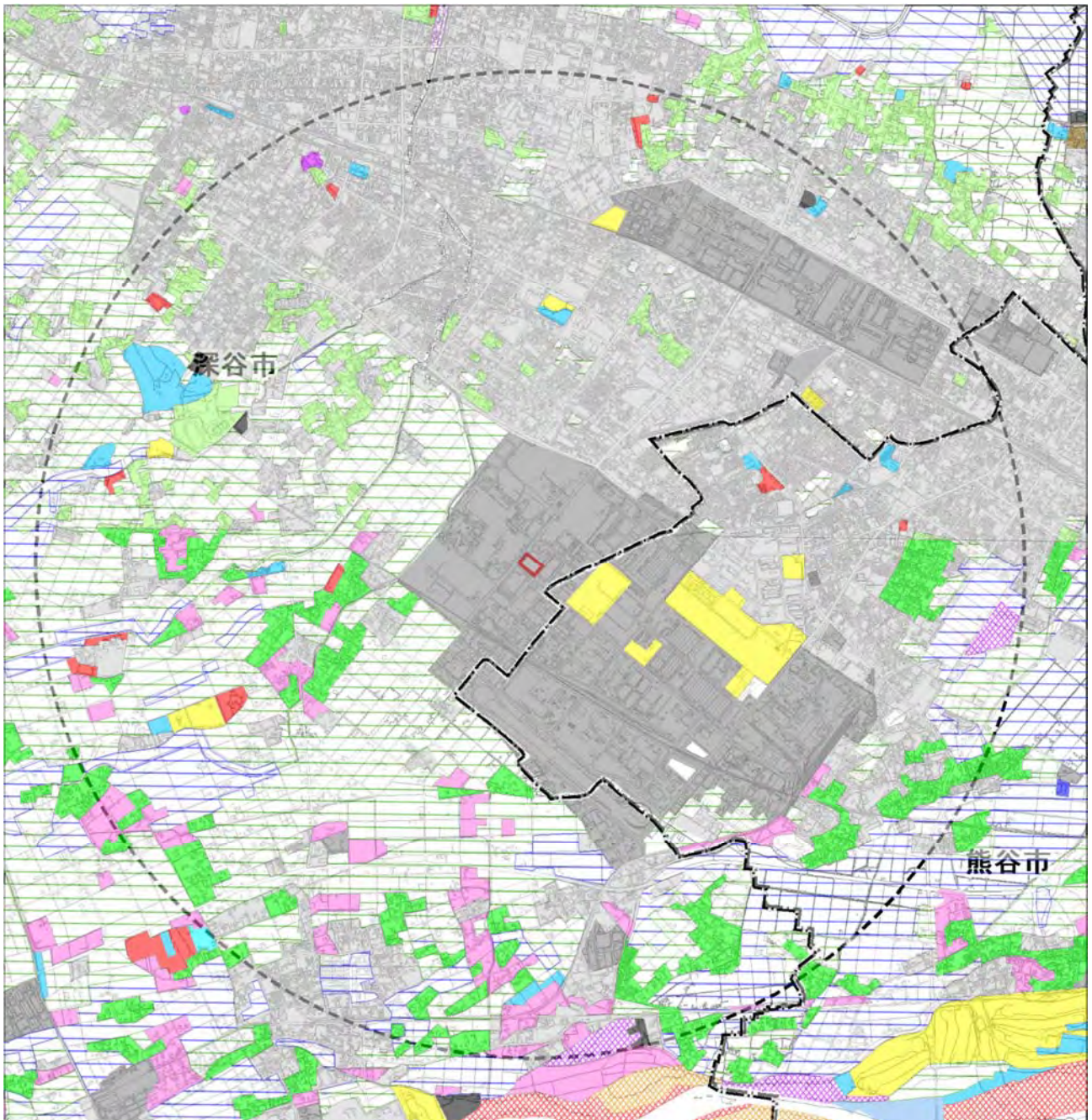
3) 植物群落の状況

調査範囲及び周辺の現存植生を、図 3-2-5-2 に示す。

事業実施区域周辺の植生は、路線及び駅周辺には市街地、工場地帯が広く分布しており、市街地周辺には緑の多い住宅地や水田、畑地、果樹園等がみられる。また、荒川周辺には、オギ群落やニセアカシア群落、ヤナギ群落が分布している。

4) 緑の量

調査範囲及び周辺は、広範囲が市街地・工場地帯として区分されているため、緑被割合は高くないが、工場地帯の緑地や、周囲の水田、畑地、草地、河畔林等により緑被割合が高い場所も見られる。



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

- | | | |
|--|--|---|
| クヌギ・コナラ群集 | スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 果樹園 |
| ゴルフ場・芝地 | ニセアカシア群落 | 水田雑草群落 |
| スギ・ヒノキ・サワラ植林 | モウソウチク林 | 畑雑草群落 |
| ヤブコウジ・スダジイ群集 | ヤナギ低木群落(VI) | 緑の多い住宅地 |
| ヨシクラス | 市街地 | 自然裸地 |
| 工場地帯 | 放棄水田雑草群落 | 路傍・空地雑草群落 |
| オギ群集 | 放棄畑雑草群落 | 造成地 |
| | | 開放水域 |

資料：自然環境保全基礎調査（植生調査）
（環境省ホームページ）

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m



図 3-2-5-2 現存植生図

3. 生態系

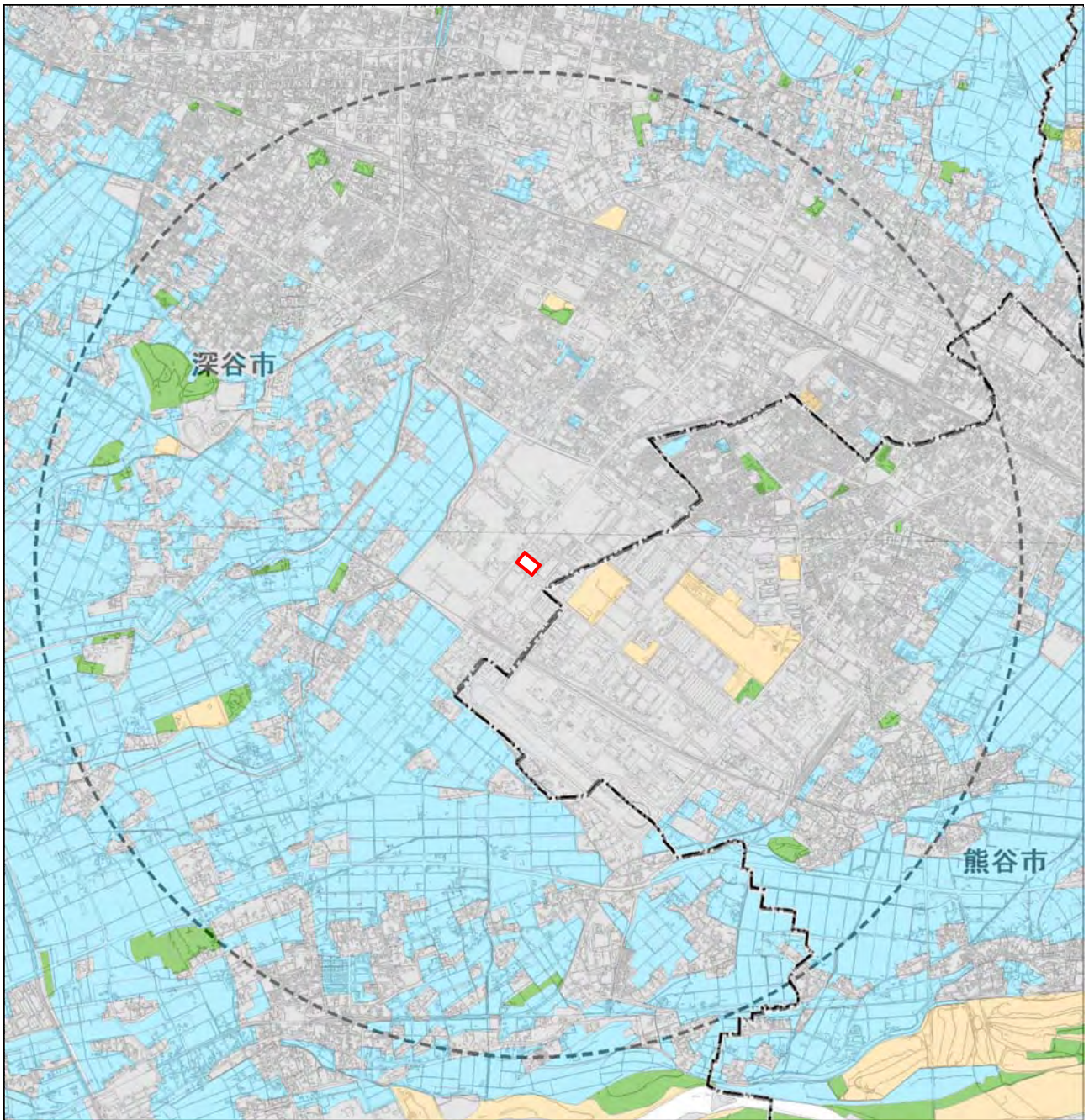
1) 地域の生態系の特性

「自然環境保全基礎調査(植生調査)」(環境省ホームページ)によると、調査範囲の環境は、図3-2-5-3に示すとおり、大きく「樹林地」、「草地」、「耕作地」、「市街地」に区分されると考える。

このような調査範囲の環境ごとに、動物・植物に関する既存資料から得られる知見に基づき、想定される地域の生態系を特徴づける種を、表3-2-5-8に示す。

表3-2-5-8 想定される調査範囲周辺の生態系を特徴づける主な動植物種

| 主要な環境類型 | 想定される生息・生育環境 | 生息が想定される主な動物の状況 | 生育が想定される主な植物の状況 |
|---------|----------------------------------|--|---|
| 樹林地 | コナラ群落 竹林 ニセアカシア群落 ヤナギ群落 | ニホンザル、ニホンリス、ヒメズミ、ヒミズ、アカギツネ、アナグマ、イノシシ、ヤマトリ、アオバト、ホトキス、サシバ、フクロウ、アカゲラ、コジュケイ、ヤマアカサル、アズマヒキガエル、アオダマシヨウ、ニニヤミ、コウカガタ、シロシカミキリ、ジヤノメチョウ | モウソウチク、ハリエンジュ、マグリ、ヨウシュヤマゴボウ、シュロ、イチハキ |
| 草地 | 路傍・空地雑草群落 芝地 オギ群落 | ハナズミ、ニホンノウサギ、タヌキ、キジ、ホオジロ、アオジ、セッカ、ニホンアマカエル、ニホンカナヘビ、ナツアカネ、キハネツノトンボ、イチモンジセセリ、スズメバチ | ナカイモ、メリケンカサヤ、コバンソウ、ゲンゲ、オキムシロ、アレチウリ、イモカタハミ、オランダガラシ、エゾノキシキシ、セイタカアワダチソウ、オオバコ、ヒメカサヨモギ |
| 耕作地 | 果樹園 水田 畑雑草群落 | タヌキ、ハクビシ、モズ、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハクセキレイ、アオダマシヨウ、シマヘビ、トウキョウダルマガエル、アジアカイトンボ、シオカラトンボ、ヒメアメンボ、タカメ、ニワハシヨウ、ハイロゲンコ、モンシロチョウ | ニラ、コシキソウ、マメグサ、イナズナ、オオノフグ、カラシナ、セイヨウアブラナ、ヒメスイハ |
| 市街地 | 市街地 工場地帯 | アブラコウモリ、タヌキ、キジバト、トビ、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ニホンアマカエル、アブラゼミ、ヤマトシジミ、モンキチョウ | シタレヤナギ、ヒバリ、コキヤナギ、ユウゲショウ、ヒメロードモリス、イカ、コスモス、ハルジオン、セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ |
| 開放水面 | 河川 | タヌキ、ニホンイタチ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、オオバン、トウキョウダルマガエル、コイ、タモロコ、トウヨシノボリ、ハクシロトンボ、タビトサナエ、オオアメンボ、タイコウチ | オオカナダモ、コカナダモ、キショウブ |



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

- 市街地
- 耕地
- 草地
- 樹林地
- 開放水面

資料：自然環境保全基礎調査（植生調査）
（環境省ホームページ）

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m



図 3-2-5-3 主要な環境区分

3-2-6 景観、自然とのふれあいの場の状況

1. 景観

調査範囲及びその周辺には、「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 埼玉県」（平成元年、環境庁）によると自然景観資源は存在しないが、「埼玉県地理環境情報 WebGIS（ふるさと景観）」（埼玉県ホームページ）によると表 3-2-6-1 及び図 3-2-6-1 に示すとおり、ふるさとの森 5ヶ所が記載されている。

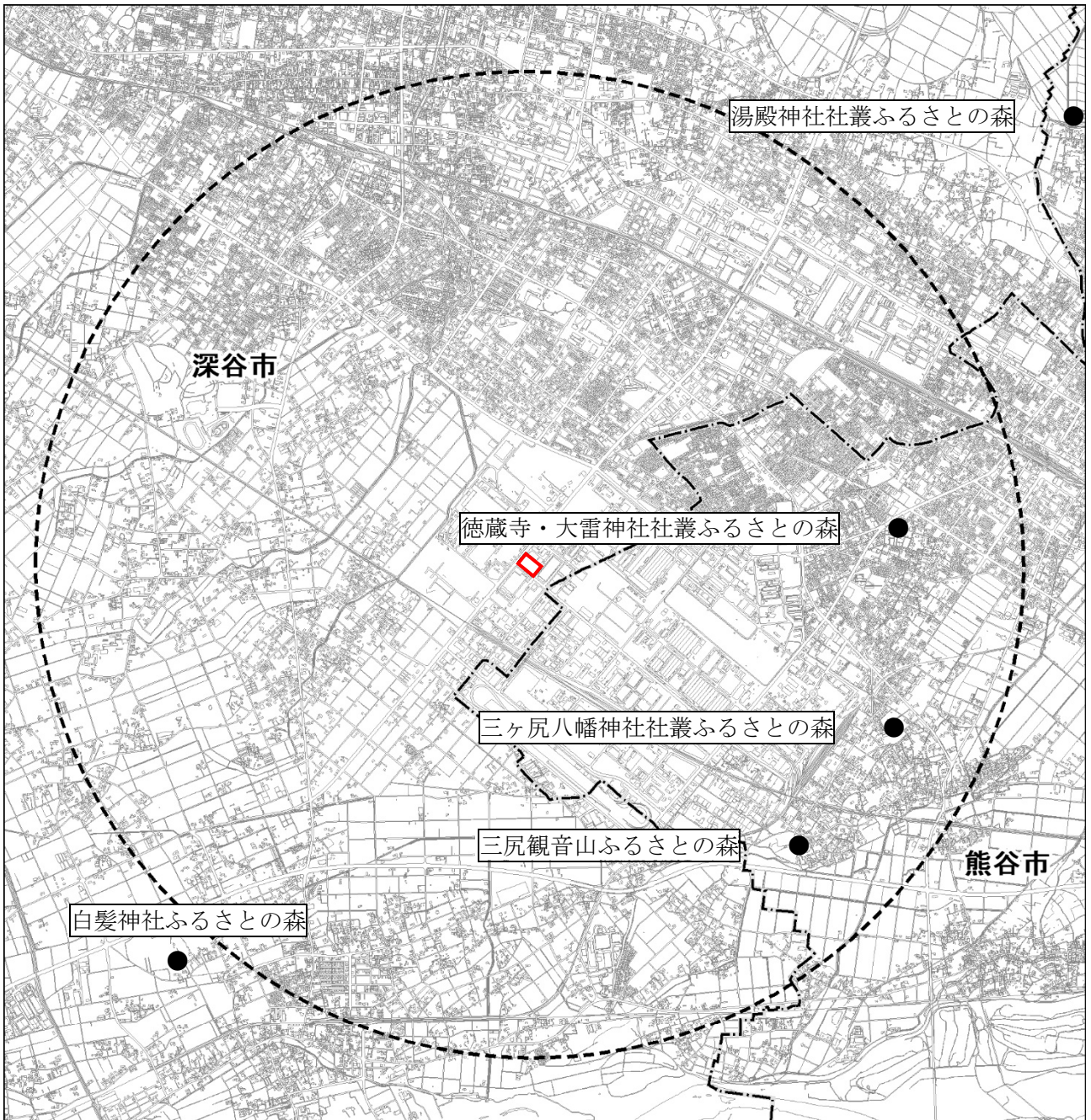
また、文化財保護法及び文化財保護条例等により指定されている大木等で景観資源となる史跡、名勝等は、「3-2-7 文化財その他の生活環境の状況」の表 3-2-7-1 及び図 3-2-7-1 に示す。

なお、いずれの景観資源も対象事業実施区域周辺には存在しておらず、対象事業実施区域周辺は眺望対象にならないと考えられる。

表 3-2-6-1 景観資源の状況

| No. | 区分 | 名称 | 所在地 |
|-----|--------|------------------|-----|
| 1 | ふるさとの森 | 白髪神社ふるさとの森 | 深谷市 |
| 2 | | 湯殿神社社叢ふるさとの森 | 熊谷市 |
| 3 | | 徳蔵寺・大雷神社社叢ふるさとの森 | |
| 4 | | 三ヶ尻八幡神社社叢ふるさとの森 | |
| 5 | | 三尻観音山ふるさとの森 | |

(資料：埼玉県地理環境情報 WebGIS（ふるさと景観）（埼玉県ホームページ）)



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

● ふるさとの森

資料：埼玉県地理環境情報 WebGIS（ふるさと景観）
（埼玉県ホームページ）

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m



図 3-2-6-1 景観資源の状況

2. 自然とのふれあいの場の状況

1) 公園

調査範囲及びその周辺には、「彩の国埼玉情報サイトさいたまナビ」によると、表 3-2-6-2(1)及び図 3-2-6-2(1)に示すとおり、自然とのふれあいの場として公園等が挙げられている。

また、対象事業実施区域近傍の公園としては、表 3-2-6-2(2)及び図 3-2-6-2(2)に示すとおり松原公園及び中折之口公園があり、自然とのふれあいの場として利用されている。

表 3-2-6-2(1) 自然とのふれあいの場の状況（広域）

| No. | 名称 | 所在地 | No. | 名称 | 所在地 |
|-----|---------|-----|-----|---------|-----|
| 1 | 錦町公園 | 深谷市 | 15 | 上柴中央公園 | 深谷市 |
| 2 | 西通公園 | 深谷市 | 16 | 杉町公園 | 深谷市 |
| 3 | スマイルパーク | 深谷市 | 17 | 杉町東公園 | 深谷市 |
| 4 | 深谷城址公園 | 深谷市 | 18 | 下宿公園 | 深谷市 |
| 5 | 見晴公演 | 深谷市 | 19 | 東方公園 | 深谷市 |
| 6 | 桜の園公園 | 深谷市 | 20 | 横町公園 | 深谷市 |
| 7 | 下台地公園 | 深谷市 | 21 | 中原公園 | 深谷市 |
| 8 | 泉台公園 | 深谷市 | 22 | 柴崎公園 | 深谷市 |
| 9 | ふれあい公園 | 深谷市 | 23 | 下原公園 | 深谷市 |
| 10 | 寿町公園 | 深谷市 | 24 | 仙元山公園 | 深谷市 |
| 11 | 空沢公園 | 深谷市 | 25 | わんぱくランド | 深谷市 |
| 12 | 秋元公園 | 深谷市 | 26 | ひがし公園 | 熊谷市 |
| 13 | 東公園 | 深谷市 | 27 | 外原公園 | 熊谷市 |
| 14 | 西原公園 | 深谷市 | 28 | みいずが原公園 | 熊谷市 |

(資料：彩の国埼玉情報サイトさいたまナビ)

表 3-2-6-2(2) 自然とのふれあいの場の状況（対象事業実施区域近傍）

| No. | 名称 | 所在地 | No. | 名称 | 所在地 |
|-----|------|-----|-----|--------|-----|
| 1 | 松原公園 | 深谷市 | 2 | 中折之口公園 | 深谷市 |

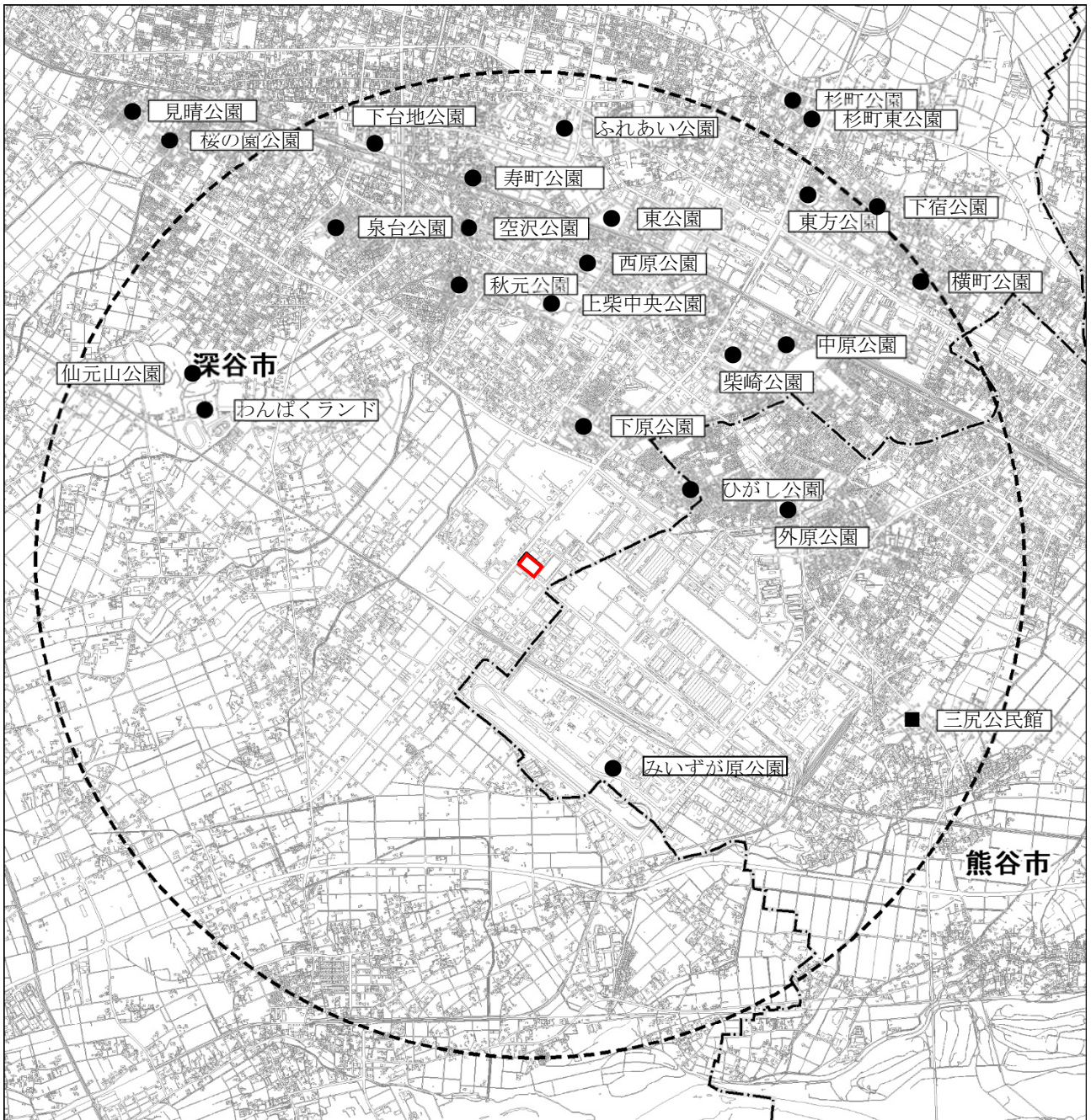
2) その他

調査範囲及びその周辺には、埼玉県ホームページによると、表 3-2-6-3 及び図 3-2-6-2 に示すとおり、健康増進に向けたウォーキングコース等が挙げられている。

なお、対象事業実施区域近傍には、ウォーキングコース等はない。

表 3-2-6-3 ウォーキングコース等の状況

| No. | 名称 | 所在地 |
|-----|-----------|-----|
| 1 | 深谷駅周辺 | 深谷市 |
| 2 | 仙元山公園及び周辺 | 深谷市 |
| 3 | 三尻公民館 | 熊谷市 |



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

- 公園
- 公民館

資料：彩の国埼玉情報サイトさいたまナビ

1:32,000

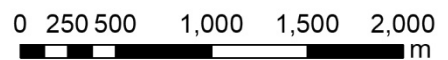


図 3-2-6-2(1) 自然とのふれあいの場の状況（広域）

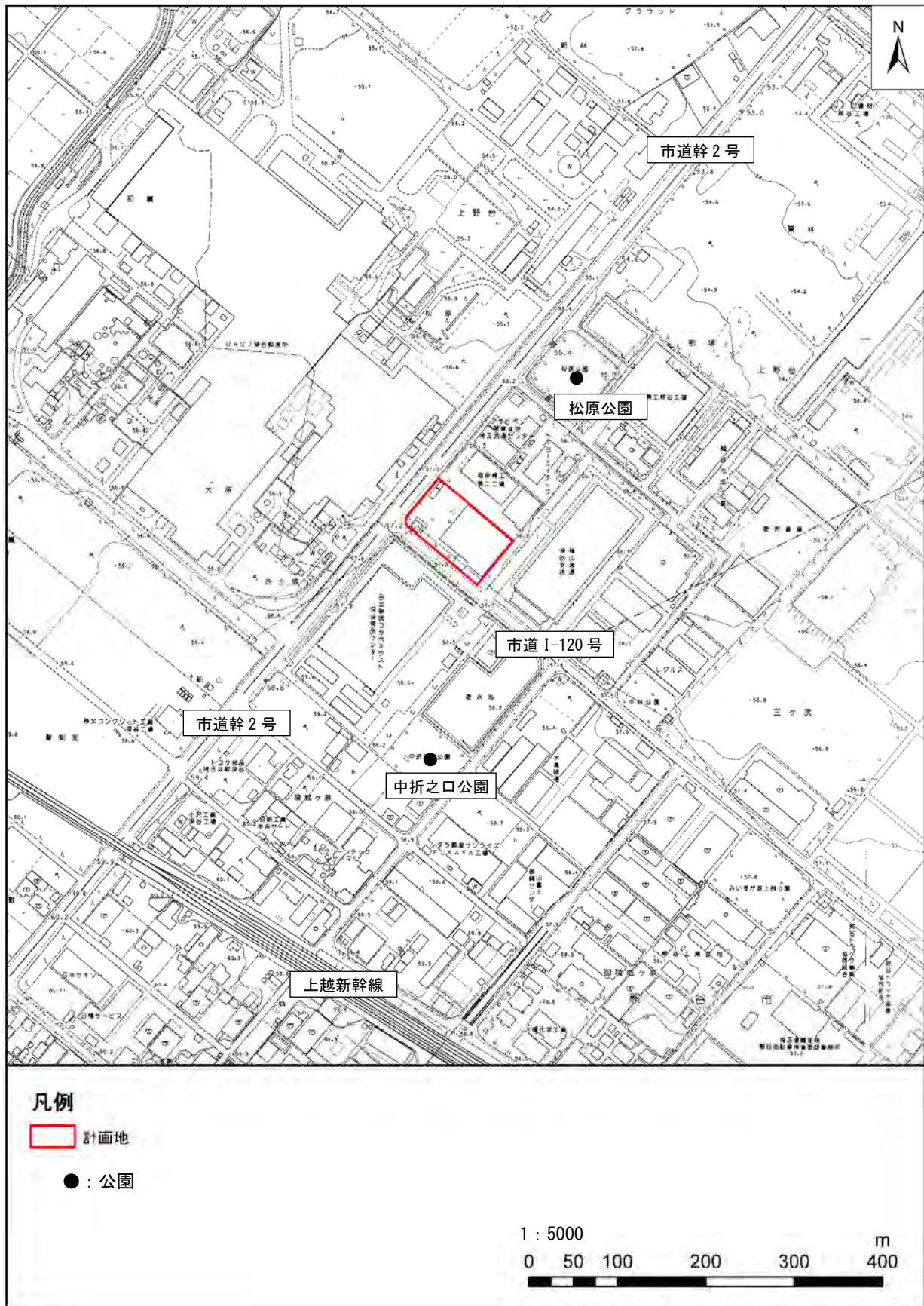


図 3-2-6-2(2) 自然とのふれあいの場の状況 (対象事業実施区域近傍)

3-2-7 文化財その他の生活環境の状況

1. 指定文化財等

調査範囲及びその周辺の「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）、「埼玉県文化財保護条例」（昭和 30 年条例第 46 号）、「深谷市文化財保護条例」（平成 18 年条例第 122 号）、「熊谷市文化財保護条例」（平成 13 条例第 120 号）に基づく指定文化財等の状況を、表 3-2-7-1 及び図 3-2-7-1 に示す。

調査範囲及びその周辺には、国指定の文化財が 9 件、県指定の文化財が 5 件、深谷市指定の文化財が 3 件、熊谷市指定の文化財が 4 件ある。

なお、対象事業実施区域周辺に指定文化財等は存在しない。

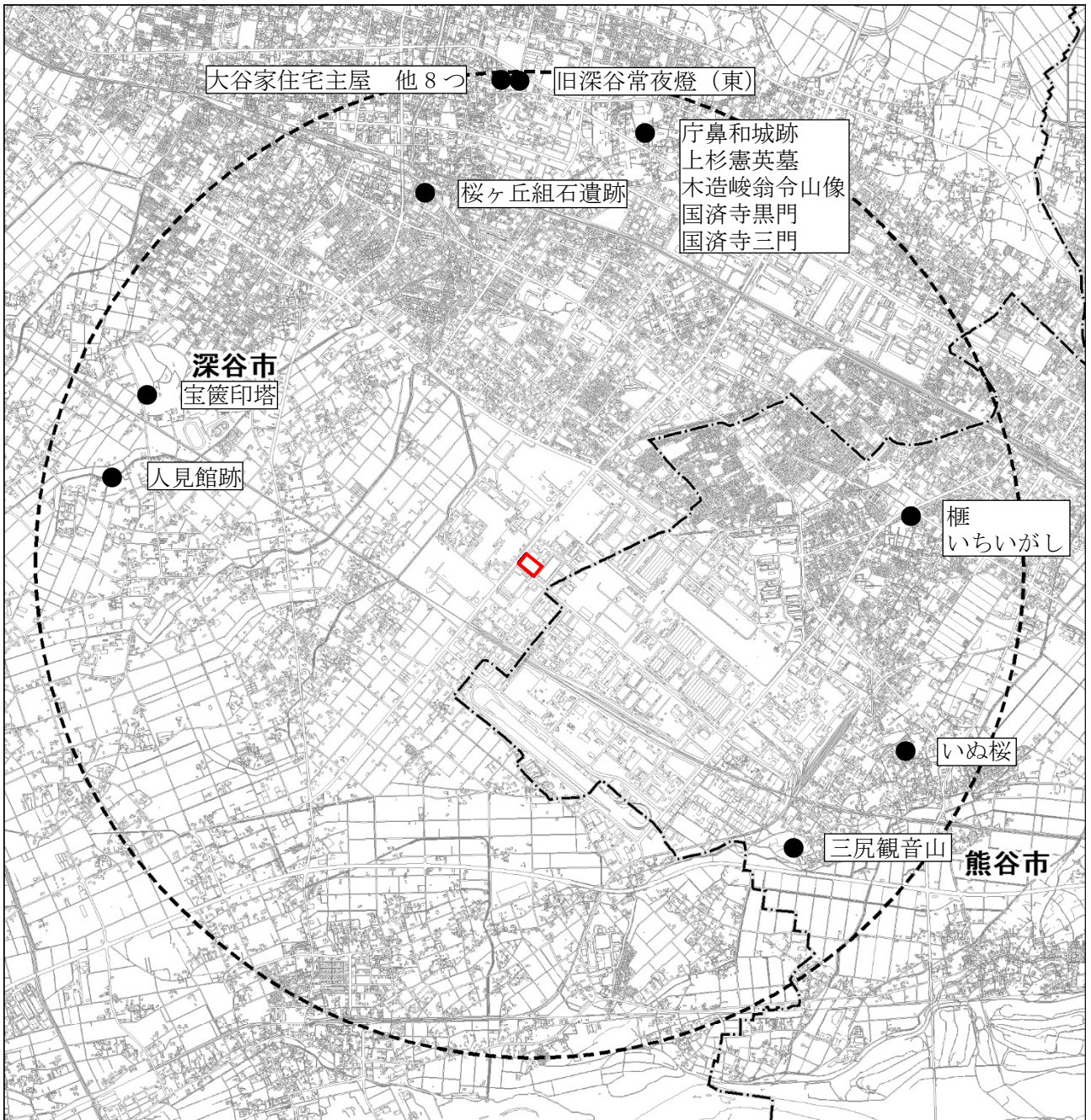
2. 埋蔵文化財包蔵地

深谷市文化振興課への聞き取りの結果、対象事業実施区域に埋蔵文化財包蔵地は存在しない。

表 3-2-7-1 指定文化財等の状況

| No. | 区分 | 種別・種類 | | 名称 | 所在地 |
|-----|-------|---------|--------|------------|--------------|
| 1 | 国指定 | 登録有形文化財 | 建築物・住宅 | 大谷家住宅主屋 | 深谷市稲荷町 |
| 2 | | | 建築物・住宅 | 大谷家住宅洋館 | 深谷市稲荷町 |
| 3 | | | 建築物・住宅 | 大谷家住宅本蔵 | 深谷市稲荷町 |
| 4 | | | 建築物・住宅 | 大谷家住宅松庭湯 | 深谷市稲荷町 |
| 5 | | | 建築物・住宅 | 大谷家住宅祠 | 深谷市稲荷町 |
| 6 | | | 工作物・住宅 | 大谷家住宅中門及び塀 | 深谷市稲荷町 |
| 7 | | | 工作物・住宅 | 大谷家住宅裏門及び塀 | 深谷市稲荷町 |
| 8 | | | 建築物・住宅 | 大谷家住宅櫓空庵 | 深谷市稲荷町 |
| 9 | | | 建築物・住宅 | 大谷家住宅米蔵 | 深谷市稲荷町 |
| 10 | 県指定 | 選定重要遺跡 | 城館跡 | 庁鼻和城跡 | 深谷市国済寺 |
| 11 | | 指定旧跡 | 旧跡 | 上杉憲英墓 | 深谷市国済寺 521 |
| 12 | | 記念物 | 史跡 | 人見館跡 | 深谷市人見 1515 |
| 13 | | 記念物 | 史跡 | 桜ヶ丘組石遺跡 | 深谷市緑ヶ丘 214-5 |
| 14 | | 有形文化財 | 彫刻 | 木造峻翁令山像 | 深谷市国済寺 521-1 |
| 15 | 深谷市指定 | 有形文化財 | 建造物 | 国済寺黒門 | 深谷市国済寺 521 |
| 16 | | 有形文化財 | 建造物 | 旧深谷宿常夜燈 | 深谷市田所町・稲荷町 |
| 17 | | 有形文化財 | 建造物 | 国済寺三門 | 深谷市国済寺 521 |
| 18 | 熊谷市指定 | 指定記念物 | 天然記念物 | 榎 | 熊谷市拾六間 689 |
| 19 | | 指定記念物 | 天然記念物 | いちいがし | 熊谷市拾六間 689 |
| 20 | | 指定記念物 | 天然記念物 | いぬ桜 | 熊谷市三ヶ尻 |
| 21 | | 指定記念物 | 名勝 | 三尻観音山 | 熊谷市三ヶ尻 |

(資料：深谷市ホームページ、熊谷市ホームページ)



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

● 文化財

資料：埼玉県ホームページ
熊谷市ホームページ

1:32,000

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m



図 3-2-7-1 指定文化財等の状況

3-2-8 一般環境中の放射性物質に係る環境の状況

調査範囲及びその周辺における地上 50cm（一部地上 1m を含む）の放射線量の測定結果を表 3-2-8-1 に、測定地点を図 3-2-8-1 に示す。

調査範囲及びその周辺の放射線量は、令和 2 年 8 月から令和 4 年 8 月まで、ほぼ横ばいで推移している。

環境省では、「放射性物質汚染対処特措法」（平成 23 年法律第 110 号）に基づく汚染状況重点地域の指定や、除染実施計画を策定する地域の要件を、毎時 0.23 μ Sv 以上の地域であることとしている。

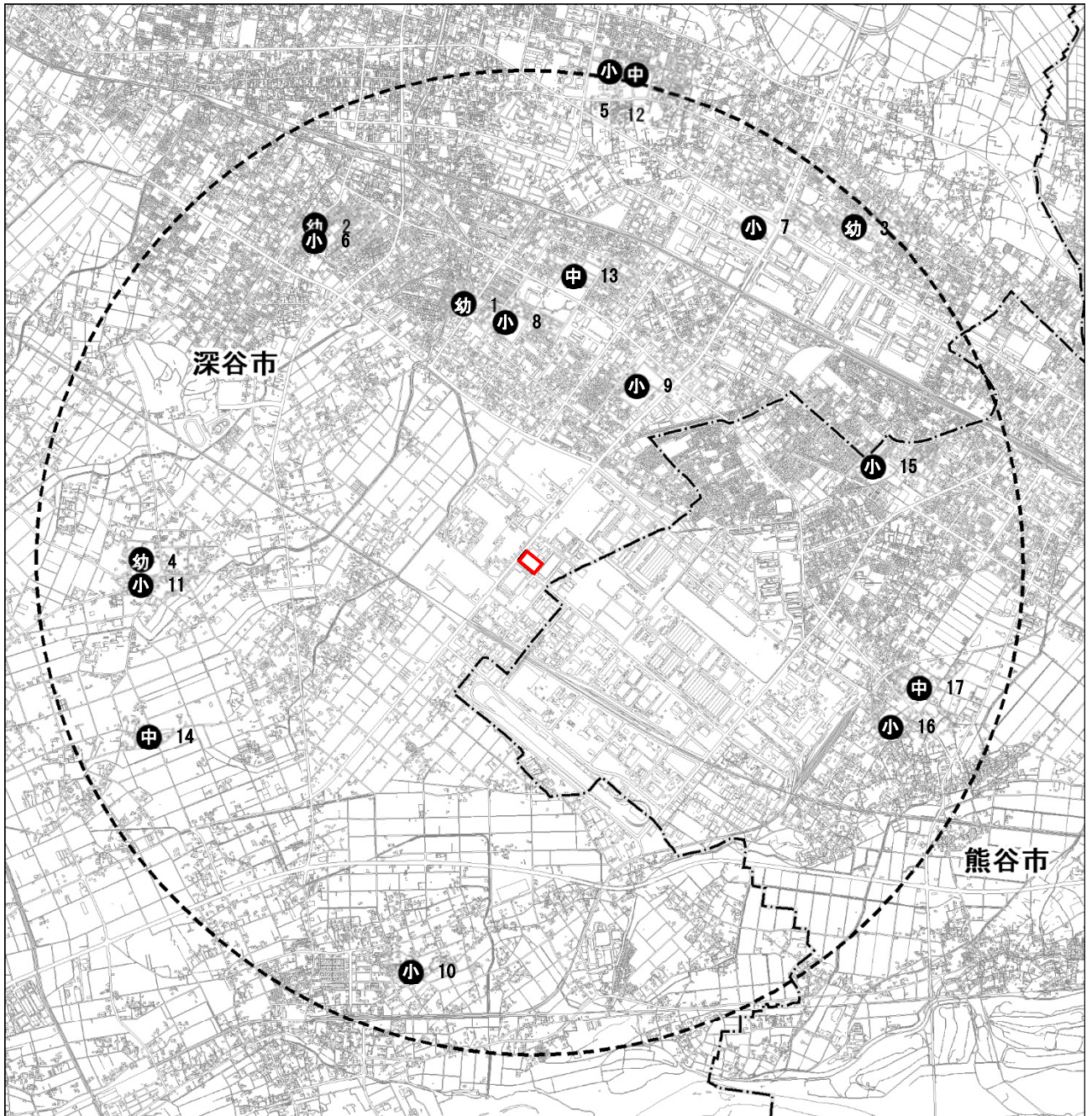
この基準と比較すると、令和 2 年 8 月から令和 4 年 8 月における調査範囲及びその周辺で測定された放射線量は基準より低い値で推移している。

表 3-2-8-1 放射線量の測定結果

| 市名 | No. | 測定地点 | 放射線量測定結果 (μ Sv/h) | | | | |
|-----|-----|--------|------------------------|-------|--------|-------|--------|
| | | | 令和 2 年度 | | 令和 3 年 | | 令和 4 年 |
| | | | 8 月 | 2 月 | 8 月 | 2 月 | 8 月 |
| 深谷市 | 1 | 上柴西幼稚園 | 0.044 | 0.042 | 0.041 | 0.041 | 0.040 |
| | 2 | 桜ヶ丘幼稚園 | 0.054 | 0.039 | 0.056 | 0.042 | 0.037 |
| | 3 | 幡羅幼稚園 | 0.031 | 0.036 | - | - | - |
| | 4 | 藤沢幼稚園 | 0.078 | 0.081 | 0.070 | 0.092 | 0.070 |
| | 5 | 常盤小学校 | 0.033 | 0.029 | 0.028 | 0.032 | 0.042 |
| | 6 | 桜ヶ丘小学校 | 0.045 | 0.035 | 0.070 | 0.042 | 0.037 |
| | 7 | 幡羅小学校 | 0.031 | 0.036 | 0.026 | 0.026 | 0.053 |
| | 8 | 上柴西小学校 | 0.055 | 0.053 | 0.052 | 0.051 | 0.047 |
| | 9 | 上柴東小学校 | 0.023 | 0.028 | 0.024 | 0.034 | 0.027 |
| | 10 | 川本北小学校 | 0.043 | 0.040 | 0.050 | 0.040 | 0.043 |
| | 11 | 藤沢小学校 | 0.040 | 0.041 | 0.046 | 0.040 | 0.040 |
| | 12 | 幡羅中学校 | 0.032 | 0.036 | 0.033 | 0.035 | 0.056 |
| | 13 | 上柴中学校 | 0.034 | 0.032 | 0.034 | 0.033 | 0.054 |
| | 14 | 藤沢中学校 | 0.035 | 0.043 | 0.035 | 0.038 | 0.046 |
| 熊谷市 | 15 | 籠原小学校 | 0.034 | 0.039 | - | - | - |
| | 16 | 三尻小学校 | 0.025 | 0.026 | - | - | - |
| | 17 | 三尻中学校 | 0.038 | 0.044 | - | - | - |

(資料：深谷市ホームページ、熊谷市ホームページ)

12, 13, 14, 17 は地上 1m、それ以外の地点は地上 50cm で測定



凡例

- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域から3km範囲
- 市区町村界

● 測定地点

資料：埼玉県ホームページ
熊谷市ホームページ

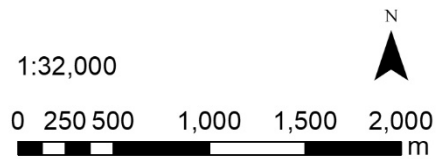


図 3-2-8-1 放射線量測定地点図

3-2-9 その他環境等への負荷の状況

1. 温室効果ガス

関係市における令和元年度の二酸化炭素排出量を表 3-2-9-1 に、対象事業実施区域の位置する深谷市における二酸化炭素排出量の経年変化を図 3-2-9-1 に示す。

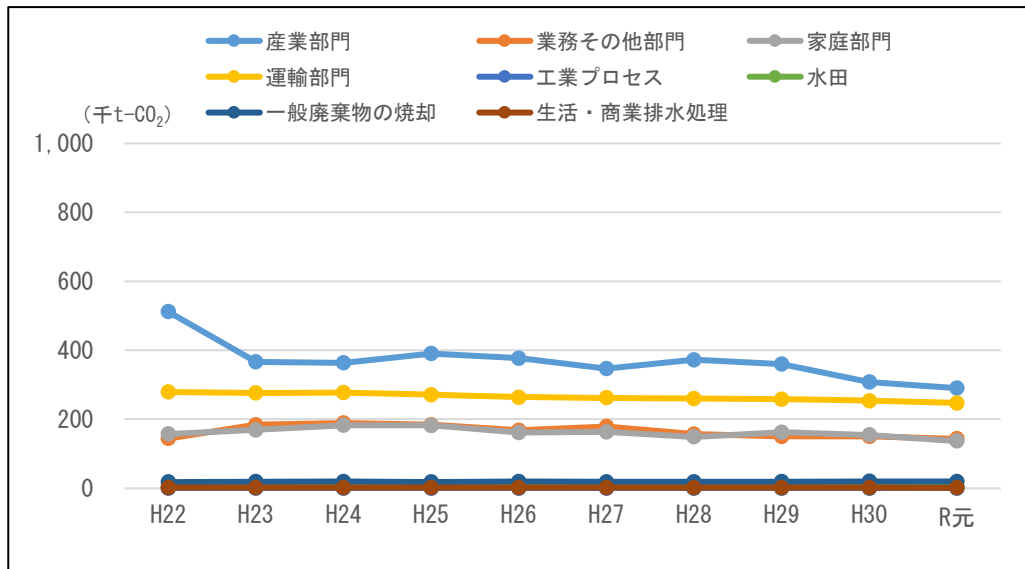
令和元年度の二酸化炭素排出量は、深谷市では産業部門の割合が最も高く、熊谷市では工業プロセスの割合が割合が最も高くなっている。

対象事業実施区域の位置する深谷市の二酸化炭素排出量は、全体的に減少傾向となっている。

表 3-2-9-1 二酸化炭素排出量（令和元年度）

| 市名 | 区分 | 排出量 | |
|-----|-----------|---------------------|------|
| | | 千 t-CO ₂ | % |
| 深谷市 | 産業部門 | 290.3 | 34.4 |
| | 業務部門 | 143.5 | 17.0 |
| | 家庭部門 | 137.2 | 16.3 |
| | 運輸部門 | 247.3 | 29.3 |
| | 工業プロセス | 0 | 0 |
| | 水田 | 3.8 | 0.4 |
| | 一般廃棄物の焼却 | 19.7 | 2.3 |
| | 生活・商業排水処理 | 1.6 | 0.2 |
| | 合計 | 843.5 | 100 |
| 熊谷市 | 産業部門 | 608.5 | 26.3 |
| | 業務部門 | 295.3 | 12.8 |
| | 家庭部門 | 198.7 | 8.6 |
| | 運輸部門 | 325.2 | 14.1 |
| | 工業プロセス | 841.6 | 36.4 |
| | 水田 | 8.3 | 0.4 |
| | 一般廃棄物の焼却 | 29.2 | 1.3 |
| | 生活・商業排水処理 | 2.9 | 0.1 |
| | 合計 | 2309.7 | 100 |

（資料：2021 年度埼玉県温室効果ガス排出量算定報告書（2019 年度算定値））
端数処理を行っているため、排出量の合計が 100%にならない場合がある。



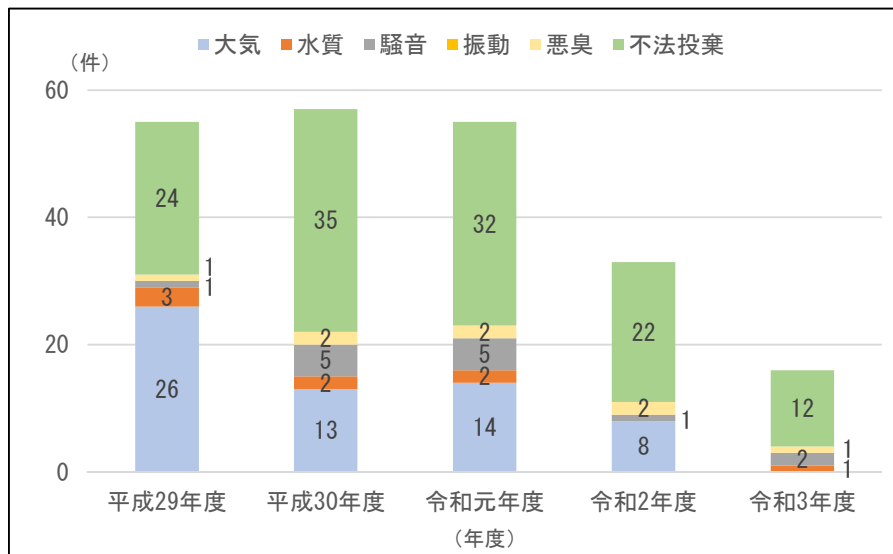
(資料：2021年度埼玉県温室効果ガス排出量算定報告書(2019年度算定値))

図 3-2-9-1 深谷市における二酸化炭素排出量の経年変化

2. 公害苦情

対象事業実施区域の位置する深谷市における平成 29 年度から令和 3 年度の公害に関する苦情件数の推移を、図 3-2-9-2 に示す。

平成 29 年度からの経年変化は、各項目ともおおむね減少傾向にあり、特に大気苦情件数は、平成 30 年度の 35 件に対し、令和 3 年度は 12 件と大きく減少した。



(資料：深谷市の環境)

図 3-2-9-2 深谷市の公害苦情件数の推移